



公益財団法人
日本体育協会

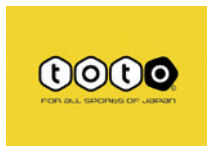
総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

平成27年度 総集編

1. 特集記事

テーマ別運営事例集

- 知って、連携！日本スポーツ少年団リーダー制度
- 日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報
- 総合型クラブとボランティア
- 自立・自律を目指して地域に根差した活動を行っているクラブ
- 行政・教育機関・自治会と連携した活動を行っているクラブ
- クラブの危機を未然に防ごう！
- クラブアドバイザーミーティングレポート
- スポーツ推進委員と総合型クラブ
- 人材確保のコツとは？
- 総合型クラブとコミュニティ
- 総合型クラブに求められるスポーツ推進 ～健康づくり、運動の習慣化～
- スポーツリスクマネジメント実践への第一歩。「まあ、いいか」をなくそう！



スポーツ振興くじ助成事業



公益財団法人
日本体育協会

INDEX

1. 特集記事

(1) 知って、連携！日本スポーツ少年団リーダー制度 [第114号 (平成27年4月20日発行)]	3
(2) 日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報 [第114号 (平成27年4月20日発行)]	7
(3) 総合型クラブとボランティア [第117号 (平成27年7月21日発行)]	
一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク (略称:KSN)	
横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 (神奈川県横浜市)	9
つまごいスポーツクラブ (群馬県吾妻郡)	12
NPO法人 しんじ湖スポーツクラブ (島根県松江市)	15
(4) 自立・自律を目指して地域に根差した活動を行っているクラブ [第118号 (平成27年8月20日発行)]	
NPO法人 尾花沢総合スポーツクラブ (山形県尾花沢市)	18
うすねニューススポーツクラブ (群馬県沼田市)	21
城下町スポーツクラブ (神奈川県小田原市)	25
(5) 行政・教育機関・自治会と連携した活動を行っているクラブ [第119号 (平成27年9月18日発行)]	
さんのヘスポーツクラブEnjoy (青森県三戸郡)	29
NPO法人 さばえスポーツクラブ (福井県鯖江市)	32
NPO法人 クラブおおづ (熊本県菊池郡)	36
(6) クラブの危機を未然に防ごう！ [第120号 (平成27年10月20日発行)]	
八郎潟町総合スポーツクラブ (秋田県南秋田郡)	40
NPO法人 スポーツドアあずま (東京都墨田区)	43
NPO法人 生き生きかにえスポーツクラブ (愛知県海部郡)	47
(7) クラブアドバイザーミーティングレポート [第120号 (平成27年10月20日発行)]	50
(8) スポーツ推進委員と総合型クラブ [第121号 (平成27年11月20日発行)]	
[Part1] 世界に例を見ない日本のスポーツ推進委員とは？	54
[Part2] スポーツ推進委員を束ねる全国スポーツ推進委員連合とは？	56
あいあいスポーツクラブたらぎ (熊本県球磨郡)	58
(9) 人材確保のコツとは？ [第122号 (平成27年12月21日発行)]	
伊那市総合型地域スポーツクラブ (長野県伊那市)	61
一般社団法人 サンビスカス沖縄 (沖縄県沖縄市)	65
(10) 総合型クラブとコミュニティ [第122号 (平成27年12月21日発行)]	
「4つの縁(えにし)」が人をつなぐ。総合型クラブの“意義・可能性”とは？	68
(11) 総合型クラブに求められるスポーツ推進 [第123号 (平成28年1月20日発行)]	
NPO法人 川場村スポーツクラブ (群馬県利根郡)	72
NPO法人 ゆうゆうスポーツクラブ海南 (和歌山県海南市)	75
(12) スポーツリスクマネジメント実践への第一歩 [第124号 (平成28年2月22日発行)]	78

知って、連携！ 日本スポーツ少年団／リーダー制度

地域住民が主体的に参画し、生涯スポーツの発展を目指す『総合型地域スポーツクラブ』（以下：クラブ）と、スポーツを通じた青少年の健全育成および地域づくりへの貢献を理念とする『スポーツ少年団』。

『地域』というキーワードを持つ両者が『地域』のために連携・協働するには、まずはお互いを知ることが第一歩ではないでしょうか。

お互いの活動や取り組みを知ること、クラブの活動に生かせるヒントや地域のスポーツ少年団との連携につながるキッカケが見つかるかもしれません。

今回は、スポーツ少年団の人材育成・確保に関わるリーダー制度をご紹介します。

1 | はじめに

日本スポーツ少年団は、「日本スポーツ少年団リーダー制度」において、ジュニア・リーダーとシニア・リーダーを規定しています。

ジュニア・リーダーは、単位スポーツ少年団において団員の模範となって活動する団員、シニア・リーダーは、単位スポーツ少年団およびリーダー会において模範となって活動する団員を指します。

※詳細は[コチラ](#)から

2 | スポーツ少年団リーダー制度

○ジュニア・リーダー

[資格取得者]：96,803人(昭和43年から平成26年までの46年間)

[対 象]：日本スポーツ少年団登録団員で、小学5年生～中学生までの者

[活 動]：単位スポーツ少年団において団員の模範となって活動する

[資格取得方法]：都道府県スポーツ少年団が開催するジュニア・リーダースクールを修了する

[認定の期間]：認定を受けた者が引き続き登録を行っている限り有効

ジュニア・リーダースクール日程表(例)

	1日目	2日目	3日目
6:00		起床・洗面	起床・洗面
7:00		朝の集い・掃除	朝の集い・掃除
		朝食(7:45～8:15)	朝食(7:45～8:15)
8:00			
9:00		実践(8)「さあ、みんなで考えよう」	講義(2)「スポーツをもっと知ろうよ」 ～スポーツ少年団とは スポーツ少年団のリーダーとは～
10:00		実践(7)「見てみよう仲間の活動」	まとめレポート記入 (10:00スタッフミーティング)
		実践(4)「知ろう、自分の体力」	
11:00		～運動適性テスト～(11:00～11:30)	閉校式 昼食(昼食後解散)
12:00	(12:30 スタッフミーティング)	昼食・休憩(12:30～13:00)	
13:00			
	受付		
14:00	開校式・オリエンテーション 講義(1)「ジュニア・リーダースクール」	実践(5)「自然の中でスポーツしよう」	
15:00			
16:00	実践(1)「グループワークトレーニング」 班別ミーティング(自己紹介・係決定)	実践(3)「アイデア生かして新聞作り」	
17:00			
	夕食(17:50～18:20)	夕食(17:50～18:20)	
18:00	実践(2)「楽しく学ぼう、レクリエーション」	班別ミーティング 「話し合おう今後の私たち」	
19:00			
20:00	係別ミーティング	係別ミーティング	
	入浴・自由時間(20:30～21:30)	入浴・自由時間(20:30～21:30)	
21:00	(21:00 スタッフミーティング)	(21:00 スタッフミーティング)	
22:00	消灯・就寝	消灯・就寝	

集団行動や自発的な
プログラムが多いで
すね。まさにリーダー
養成学校です！

○シニア・リーダー

[資格取得者]：8,506人(昭和43年から平成26年までの46年間)

[対 象]：日本スポーツ少年団登録団員で義務教育を修了した20歳未満の者

※詳細は[コチラ](#)から

[活 動]：単位スポーツ少年団および都道府県リーダー会において模範となって活動する

[資格取得方法]：日本スポーツ少年団が開催するシニア・リーダースクールの全課程を修了する

[認定の期間]：認定を受けた者が引き続き登録を行っている限り有効

シニア・リーダースクール日程表(例)

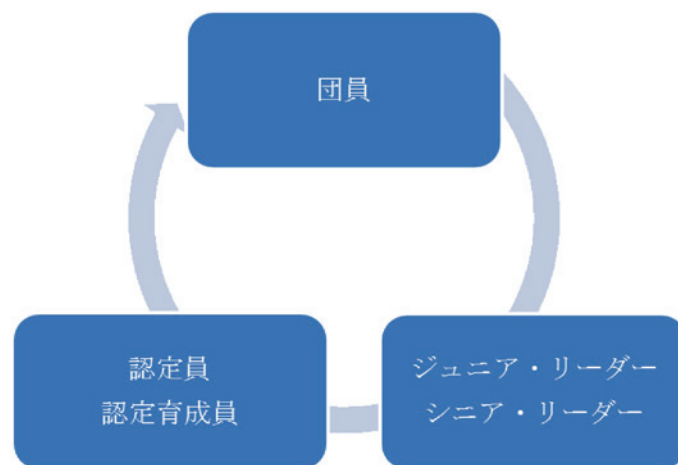
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	
6:00		起床・清掃(宿泊施設)	起床・清掃(宿泊施設)	起床・清掃(宿泊施設)	起床・清掃(宿泊施設)	6:00
		清掃(研修施設)(20分) 係別MTG(10分)	清掃(研修施設)(20分) 係別MTG(10分)	清掃(研修施設)(20分) 係別MTG(10分)	清掃(研修施設)(20分) 係別MTG(10分)	
7:00		朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	7:30
8:00		朝食 7:20～8:30	朝食 7:20～8:30	朝食 7:20～8:30	朝食 7:20～8:30	8:30
9:00		講義④「活動時の安全管理」 テキスト編・実践編(各40分)	講義⑦「国際交流」(30分)	スポーツ指導実践③ 「スポーツ指導実践」	退出口検(8:45～)	9:30
10:00		休憩10分	班別活動② 「テーマディスカッション」		班別活動④ 「班別活動の総括」	
		講義⑤「活動プログラムの計画」 テキスト編・実践編(各40分)				
11:00	受付	休憩10分	スポーツ指導実践② 「指導案作成②」		全体会	11:15
	施設オリエンテーション		「指導実践リハーサル」		閉校式	11:45
12:00	昼食(11:30～12:20)	講義⑥「運動適性テスト」(60分)				12:30
	開校式・オリエンテーション(12:20～)	昼食(12:30～13:30)	昼食(12:30～13:30)			
13:00	講義①「スポーツ少年団の理念とスポーツリーダー」 「団の組織とリーダー-指導者の役割」(30分)			昼食(13:00～14:30)		
14:00	講義②「少年期の発達」 生理編・心理編(各40分)	スポーツ指導実践① 「指導案作成①」	スポーツ指導実践② 「指導案作成②」			
15:00	休憩10分	班別活動① 「テーマディスカッション」	「指導実践リハーサル」	スポーツ指導実践④ 「スポーツ指導実践の振り返り・評価」		
	講義③「グループワークトレーニング」(30分)					
16:00	実習① 「グループワークトレーニング」 「個人目標の設定」	「面接」				
17:00	係別活動 「役割・業務確認」	実習② 「班別対抗スポーツ活動①」	実習③ 「運動適性テスト」	班別活動③ 「テーマディスカッション」		
18:00			班別対抗スポーツ活動②			
19:00	夕食(ブロック別) 18:45～19:30(2分割)	夕食 18:30～19:30	夕食 18:30～19:30	夕食 18:30～19:30		
20:00	入浴 20:00～21:00	自主活動、「面接」	入浴 19:30～20:30	自主活動(レクリエーション) 19:30～		
21:00	自主活動、「面接」		自主活動	入浴 21:00～22:00		
22:00	就寝準備	入浴 21:30～22:30	就寝準備	就寝準備		
23:00	消灯	就寝準備				
		消灯	消灯	消灯		

5日間のスクーリングでは、ジュニア・リーダースクールに比べ、指導実践のプログラムが多く盛り込まれていますね

3 | 人材育成・確保を目指して

ジュニア・リーダーおよびシニア・リーダーの役割は、団員の模範やまとめ役、指導者の補助役にとどまりません。登録団員の約9割が小学生であるスポーツ少年団では、小学校の卒業を契機にスポーツ少年団活動をやめちゃう団員が多いのが現状です。ジュニア・リーダーおよびシニア・リーダースクールへの参加を通じ、指導することの楽しさや素晴らしさを体験することで、地域のスポーツ少年団で指導を担う指導者が育っていき、ひいては人材の育成や確保につながるサイクルを目指しています。

総合型クラブが、スポーツ少年団にも登録・所属する中学生や高校生に対して、ジュニア・リーダーやシニア・リーダーの資格取得を促すことは、『次世代』のクラブ運営におけるリーダーや指導者の育成にもつながります。



※スポーツ少年団認定員・認定育成員については[コチラ](#)から！

4 | 総合型クラブに置き換えると…？

それでは、スポーツ少年団の人材育成・確保のモデルをクラブに置き換えるとどのようなのでしょうか。スポーツ少年団と同様に、まずはクラブの活動を通して魅力を伝えること、そして将来的にクラブの運営や指導に携わるための知識・技術習得の場の提供やクラブ間の若手世代のネットワーク構築など、クラブ運営への興味・関心を引くことが必要です。

5 | まとめ

スポーツ少年団では、小学5年生以上の団員を対象に、資格取得のための養成講習(スクーリング)を通じ、次世代の指導者養成(人材育成・確保)を目指していますが、この仕組みはクラブにとっての人材育成・確保にも生かすことができます。

ジュニア・リーダースクールやシニア・リーダースクールでは、スポーツ少年団に特化した内容のみならず、指導者として必要な資質・知識について学ぶことができるため、次世代のクラブ運営を支える人材育成にそのまま活用することができます。

そのため、クラブに所属する小学生～高校生にスポーツ少年団への登録を促し、ジュニア・リーダー、シニア・リーダースクールに参加する環境を整えることは、総合型クラブにとって大変有益となるでしょう。

また、クラブにおける人材育成・確保には、魅力あるクラブ、やりがいを感じる役割を提供することが重要です。^{*} これらを踏まえ、ぜひクラブの皆さんで将来的な人材育成・確保について考えてみてください。

※【メルマガ109号：連載「クラブ運営に関わる人材の確保・育成」を振り返る】⇒ 詳細は[コチラ](#)から

【参考資料】

- メルマガ80号特集 スポーツ少年団の理念とクラブの共存 …………… [コチラ](#)をクリック！
- 総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013 P.31 …………… [コチラ](#)をクリック！
- 日本スポーツ少年団関連資料…………… [コチラ](#)をクリック！

クラブでも活用できます！

- 「みんなで遊んで元気アップ！ アクティブ・チャイルド・プログラム」…… [コチラ](#)をクリック！
- 「アクティブ・チャイルド・プログラム、子どもの心と体を育む楽しい遊び」 [コチラ](#)をクリック！

公認ジュニアスポーツ指導員

現代の子どもたちの課題とジュニアスポーツ指導員

ジュニアスポーツ指導員の役割の一つである、子どもたちが遊びを通じて、楽しみながら身体を動かすプログラムを提供することは、子どもの体力低下や運動の二極化が取り沙汰されている現代において、非常に重要となっています。

子どもたちに発育・発達段階に沿った「基本的動作」を習得させることは、スポーツスキルの上達や将来的な競技能力の向上に影響するのみならず、ケガの予防にもつながります。

ぜひ**ジュニアスポーツ指導員**の専門的な知識・技術を取得し、多くの子どもたちが所属する総合型クラブでのスポーツ指導に役立ててみてはいかがでしょうか。

【受講条件】 受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者

【受講内容】

共通科目35時間 [共通Ⅰ：通信講座 (自宅学習)]

専門科目40時間 [集合講習会 全国2会場 (埼玉・滋賀) で前期3日間、後期2日間の2回に分けて開催]

[埼玉] 前期：平成27年10月9日 (金)～10月11日 (日)

後期：平成27年11月21日 (土)～11月22日 (日)

[滋賀] 前期：平成27年10月16日 (金)～10月18日 (日)

後期：平成27年12月5日 (土)～12月6日 (日)

こんな内容を学べます！

- 大人のスポーツと子どものスポーツの違い
- 移動系 (走る・跳ぶ等)・平衡系 (転がる・よじ登る等)・
操作系 (投げる・つかむ等) の運動スキル
- 運動遊びやゲームの種類、
スポーツ種目特有のスキル (サッカー・水泳・ダンス等)

▶ 詳細は[コチラ](#)をクリック！

【申込期間】 平成27年6月1日 (月)～6月30日 (火)【予定】

【申込方法】 後日下記URLに掲載

【受講料】 共通科目：21,600円／専門科目：21,600円

【その他】 右記URL参照 <http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/214/Default.aspx>

公認スポーツプログラマー

総合型クラブにおけるスポーツプログラマーの役割

総合型クラブでは、子どもから高齢者、障がい者まで、さまざまな方々がスポーツを楽しんでいます。そのため、適切なスポーツ指導を行うためには、各々の目的や年齢、能力などに応じたさまざまな知識を取得し、安全に留意して効果的に指導を行うことが重要です。それらの知識を学ぶ資格として、**公認スポーツプログラマー資格**があります。

ぜひスポーツプログラマーの専門的な知識・技術を取得し、スポーツを楽しむ多くの方々への指導に役立ててみてはいかがでしょうか。

【受講条件】

受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者

【受講内容】

共通科目Ⅰ・Ⅱ 70時間

[集合講習] 全国2会場(東京・大阪)・平成27年8月7日(金)～8月9日(日)・16時間 [自宅学習] 54時間

専門科目 63時間

[集合講習(東京)] 前期:平成27年9月15日(火)～9月18日(金)／後期:平成28年1月25日(月)～1月29日(金)

こんな内容を学べます！

- 体操・エアロビクス・水泳・レクリエーション等のヘルス・エクササイズ
- 体調チェックや安全管理(ウォーミングアップ・クーリングダウン)
- 子ども、女性、高齢者、障がい者のフィットネスプログラム

▶ 詳細は[コチラ](#)をクリック！

【申込期間】

平成27年4月20日(月)～6月5日(金)

【申込方法】

後日下記URLに掲載

【受講料】

共通科目：21,600円(共通科目Ⅰ免除者は17,280円、共通科目全免除者は不要)

専門科目：54,000円(健康運動指導士有資格者は25,700円)

【その他】

右記URL参照 <http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/215/Default.aspx>

| 特集 |

総合型クラブとボランティア

総合型クラブとしてのボランティア活動

横浜マラソンの給水所でランナーをバックアップ

一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク(略称：KSN)
横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

去る3月15日に23,430人の参加をもって開催された「横浜マラソン」では、「一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク(略称：KSN)」と「横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」が神奈川県内の総合型クラブへボランティアを募集しました。そして、12のクラブから194名の参加を得て、給水所でのボランティアを行いました。そこで今回は、他クラブにおいてもボランティア活動実施を検討する契機となることを目的として、参加に至った経緯、当日の活動の様子、参加しての成果などを公益財団法人神奈川県体育協会のクラブアドバイザーの内田佳彦氏にお話を伺いました。

🔑 キーポイント

- ◎支える喜びを肌で実感できる
- ◎経験することで活動の場が広がる

1 | 実施経緯・ボランティア募集にあたって

横浜マラソンでのボランティア活動参加が決まったのは平成26年4月でした。横浜マラソン組織委員会からの依頼を受けて実現しました。依頼がきた要因としては、2012年より世界トライアスロン大会エイジの部(一般)の給水所を神奈川県内のクラブがボランティアとして参加してきた実績が評価されたことによります。そして、「横浜マラソン」には横浜市連絡協議会とKSNが連携してボランティアの参加募集を行い、若葉台文化スポーツ・文化クラブ、弘明寺くらぶ、都築スポーツプランナー竹の子会をはじめ12クラブ(下記表1参照)から、194人(下記表2参照)が参加しました。

■参加条件

- 年齢：原則高校生以上。作業に支障がなく、リーダーが管理できるのであれば小学校高学年でも参加可能
- 交通費・食費：支給なし
- 集合・離散：公共交通機関を利用すること。配置場所がアクセス困難な場合、主催者が用意するシャトルバスの利用が可能

2 | 当日の取り組み

3月15日の横浜マラソン当日はフルマラソンの選手への給水として用意された18か所の給水所のうち、第3給水所（本牧ブロック8.1km地点／6クラブ参加）と第4給水所（三溪園ブロック10.6km／6クラブ参加）の2か所を担当しました。集合は朝の6時30分でした。大会主催者側から簡単な指示は出しましたが、内容に具体性が欠けていたためボランティアの皆さんには戸惑いが見られる場面がありました。その上、道路の交通規制が始まるまで何もできない時間帯もありました。しかし、幸い各クラブのリーダーがイベント慣れしていたため、テーブルの上にコップを並べたり、水の準備など、臨機応変に対応することができ大きな混乱もなく無事終了することができました。

■当日業務

- 担当業務：給水所2か所（第3給水所・第4給水所）
- 給水所：1か所につき6ユニット（班）で担当
- ユニット（班）：15名から20名で1ユニットを構成。リーダーはうち1名。1つのクラブで1ユニットを構成

■参加クラブ及び人数（表1）

	クラブ名	人数
第3給水所	KAZU SPORTS CLUB	21
	NPO法人かながわクラブ1	17
	弘明寺くらぶ	16
	NPO法人かながわクラブ2	12
	NPO法人クラブテアトロ	21
	NPO法人わくわく教室	10
	給水所合計	97
第4給水所	NPO法人横浜かもめanimaクラブ	21
	都筑スポーツプランナー竹の子会	20
	NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブ	17
	川崎SELFチーム	14
	中原元気クラブ	13
	（一社）寒川総合SC・城下町SC	12
	給水所合計	97
合 計		194

■男女別・年齢別参加者内訳（表2）

年齢	～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男	1	36	7	8	9	14	14	12	11	112
女	1	6	3	5	14	31	8	8	6	82
合計	2	42	10	13	23	45	22	20	17	194



横浜マラソン当日のボランティアの活動の様子



コップに水やスポーツ飲料を入れて準備万端



子どもたちもボランティアの仕事を体験

3 | 成果と課題

今回ボランティアとして参加した皆さんは、初めてこうした活動を行った人たちが多く、「こういうスポーツの楽しみ方があるのだ」と知っていただけたことがまず成果の一つにあげられます。ボランティア活動後に集めた参加者アンケートの回答にも「すごく楽しかったです」「来年もやりたいです」という意見が相当数あり、支える楽しみを肌で実感してもらうことができ、次につながるものとなりました。

しかし、その一方で問題もありました。当初は3か所の給水所の実施を考えていましたが、応募クラブ数が予想を下回ったため2か所となりました。メール配信のみの募集案内だったことも原因の一つにあげられ、周知が不十分だった感は否めません。そして、もう一つの問題点としては、当日の活動がスムーズにいかない時間帯があったことです。そのため、「選手が来るまで準備にバタバタしてしまった」と、参加者からのアンケートにも意見が寄せられるなど、事前準備や情報共有の重要性が浮き彫りになりました。

4 | 総合型クラブがボランティアを行うメリット

今回の横浜マラソンのボランティアでは、クラブ側・大会運営側双方にメリットがありました。総合型クラブ会員にとっては、クラブに加入することにより、今回のような大きなスポーツイベントでボランティア活動を行うことができるというメリットがあります。また、クラブとしても、このようなスポーツボランティア活動をクラブのセールスポイントにすることができ、人材育成の場として活用することもできます。

一方で、運営側の組織委員会にとっては、一般公募でボランティアを集めることより、総合型クラブに依頼をした方が連絡等の事務作業の効率が上がり、労力が少なくできるというメリットがありました。

5 | 活動を継続することで2020年につなげる

最初はボランティアをやって楽しかったというのでもいいのですが、2回目からはスキルアップへつなげることが重要となります。そのためにもコアスタッフになり得る人材を見つけて、どんどん活用していくことが大切です。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックの時には総合型クラブからも人材を送り込めるようになり、ボランティアの質が向上し、「日本のボランティアは素晴らしい」と世界中から来る人たちに思ってもらいたいです。これからも毎年参加して、業務内容のハードルを上げていき、他のスポーツイベントへと活動の場を広げていきたいと思っています。

6 | 人脈づくりがクラブの発展につながる

今回のようなボランティア活動の場を広げるためには、まず人脈をつくるのがポイントとしてあげられます。競技団体やイベントの組織委員会などにルートを見つけて、現場レベルで交流を深めることが大切です。総合型クラブを運営している方は連絡協議会などにどんどん出て行き、人間関係を広げていくことによって、ボランティア活動に限らずクラブを発展させることにもつながっていくのではないのでしょうか。

一般社団法人

神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク

連絡先：〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-11-2

NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF内

TEL：044-833-2555 FAX：044-833-3006

E-mail：jimukyoku@kanasponet.com

ホームページ：<http://www.kanasponet.com/>

横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

連絡先：〒241-0801 神奈川県横浜市旭区若葉台4-34-1

NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブ内

TEL：045-921-0404

ホームページ：<http://www2.yspc.or.jp/ysa/sougougata>

特集 | 総合型クラブとボランティア

総合型クラブを支えるボランティア

なくてはならない存在となった外国人ボランティアの参加

つまごいスポーツクラブ

地元の人たちだけでなく、地元の小・中学校の英語指導助手をしている外国人の皆さんにもボランティアとして協力してもらっている「つまごいスポーツクラブ」。これまで実施してきた活動を根付かせ、誰もが知るクラブを目指した取り組みをご紹介します。

♂ キーポイント

- ◎地域住民への積極的な声掛け
- ◎外国人ボランティアへの協力要請
- ◎ボランティアが継続して参加できる雰囲気づくり

1 | クラブの概要・現状

スポーツ推進委員が主体となって地域住民とともに、一人でも多くの方がスポーツに親しみ健康増進、仲間づくり、リフレッシュの場として、「人が集い・仲間とつながり・みんなが元気になる地域に根ざしたクラブであること！」をクラブの理念に掲げています。大変な場面も多々ありますが“やり甲斐”を感じて取り組んでいます。自治会へのチラシの配布の協力、空き教室の利用、プール開場時の委託事業の受託、またイベント等に村長が同席するなど、地域とともに総合型クラブの応援体制が整いつつあります。しかし、資金面ではスポーツ振興くじ助成事業である自立支援事業・クラブマネージャー設置支援事業に頼らなければならないのが現状です。

2 | 積極的な声かけでスタッフを増員

つまごいスポーツクラブに興味を示してくれた地域住民に積極的に声をかけ、得意分野で指導、ご協力をいただいています。中でも人気があるのが孺恋小学校・中学校の英語指導助手のインターナショナルスポーツクラブです。そのクラブが始まったきっかけは、つまごいスポーツクラブのスタッフが親交のあった英語指導助手に「自分の国で子どもの頃にやっていた遊びを、日本の子どもたちに教えてほしい」と声をかけたのが最初です。そして、英語を使って海外の遊びやスポーツを子どもたちに体験してもらっています。ボランティア先進国の彼らの姿勢はとても参考になり、彼らはつまごいスポーツクラブにはなくてはならない存在となりました。引き受けてくれた彼らにとっても地元の人たちと親交を深めるのにいい機会となっています。その他の各活動に参加している人たちも積極的にクラブづくりに協力し、クラブからの協力依頼に対しても多くの方が参加協力する姿勢を見せています。

また、運営スタッフのうちクラブ会員等が占める割合は90%です。最初はボランティアで参加をしていた人が、その後運営スタッフになることが多く、必然的にクラブ会員の占める割合が増えました。



英語指導助手によるスポーツ教室の様子

3 | 地域性を大切にした雰囲気づくり

活動していく中で、会員や会員の保護者間の口コミで地域住民の得意種目や、実施して欲しい種目について耳を傾けています。地域性を大切に運営委員間の連絡を密にし、行動を起こそうとする思いを大切に、ボランティアとして関わってもらえるような雰囲気づくりに気を配り、継続して参加できる環境づくりにも心掛けています。

また、毎年行う“つまスポフェスティバル”やイベント、さらにはアロマヨガ教室などの際に感想を書いてもらう「参加者アンケート」の最後にボランティアや運営スタッフの募集告知を盛り込み、参加者に対しても積極的に声をかけて協力者を募っています。嬭恋村で実施した群馬県連絡協議会交流会では、地元の歴史と自然にとっても詳しい2人の方にボランティアでガイドをお願いし、会場周辺の石樋の滝コース（1時間）ウォーキングを楽しみました。参加者にも川の水の中をワラジで歩いてもらうなど、童心に返ってもらえるような趣向を凝らしました。



元気いっぱいのウォーキングの様子



ウォーキングの様子

4 | 今後の課題・展望

孺恋村は農林地帯で人口10,227人、少子高齢化が進み、小・中学校を統合しているのが現状です。今後つまごいスポーツクラブがより地域に必要な存在になるためには、これまで実施してきた活動を根付かせ、誰もが知る活動にしていきたいと思います。そのためにも、地域住民の方々にこの活動を理解して参加してもらい、ボランティアとしても参加していただき、地域の活性化、住みやすい地域づくりの一翼を担えると幸いです。

ボランティアの声

○英語指導助手……日本に来て言葉の違いはもちろん、文化の違いはカルチャーショックと言えるほどたくさんありました。戸惑いが多い中、地域の活動で知った「つまごいスポーツクラブ」の活動は、子どもたちともより仲良くなれるととてもいい機会だと思いました。今後もボランティア活動を通して、少しでも皆さんのお役に立てるならうれしいです。

○ガイドの声……今回ガイドとして孺恋村の自然の素晴らしさを伝えることができてとても楽しかったです。一人でも多くの方にこの村の魅力を伝えることがこれからもできればとても幸せです。

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成25年2月23日
- 所在地：群馬県吾妻郡孺恋地区
- 運営：会員数120名（平成27年6月現在）、予算規模146万円（平成26年度）

特徴：子ども向けのプログラムを中心に、中高年にも喜んでいただけるプログラムを模索しながら活動しています。その中でも特に盛り上がっているのは、ヒップホップダンス、キッズくらぶ（未就学児対象の遊びながら運動機能を高めるプログラム）。一人でも多くスポーツの楽しさを発見できるクラブを目指しています。

連絡先：〒377-1615 群馬県吾妻郡孺恋村鎌原1053-12972
 TEL：0279-84-3877 FAX：0279-84-3877
 E-mail：info@tsumagoisports.club
 ホームページ：<http://tsumagoisports.club>

特集 | 総合型クラブとボランティア

総合型クラブを支えるボランティア

同じ思いを共有することでボランティアが増加

NPO法人しんじ湖スポーツクラブ

「NPO法人しんじ湖スポーツクラブ」は行政主導で設立したクラブでしたが、担当の職員が異動となった後は活動に四苦八苦した時期もありました。しかし、地域住民の皆さんの力が支えとなってクラブ運営が軌道に乗り始めました。現在、地域住民約40名で構成している5つの部会がクラブを運営しており、全員クラブ会員であり、ボランティアであります。まさにボランティアが支える総合型クラブの活動にスポットを当てました。

♂ キーポイント

- ◎生きがいとなるボランティア活動
- ◎仲間が仲間を呼び、人と人がつながる

1 | クラブの概要

少子高齢化や子どもの体力低下など様々な社会情勢の変化に対応していくため、町の専属職員が中心となって準備を進め平成14年3月にクラブが設立しました。そして、地域の子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを楽しめる場を整え「健康づくり」や「生きがいづくり」「仲間づくり」を応援することを目的に活動を始めました。平成18年には法人格を取得し、地域の様々な団体と連携を取りながらスポーツを核とした町づくりを目指して活動を続けています。

2 | 同じ思いの共有でボランティアを増員

行政主導で設立したクラブは、町の職員が中心となって運営も行っていました。しかし、設立から2年後に職員が異動となり、残されたのが嘱託職員と臨時職員の2名でした。失敗も多く四苦八苦しながらの運営に、手を差し伸べてくださったのが地域の方々でした。元々、宍道町は総合型クラブが設立される前からスポーツが盛んで、町がボランティアの育成に力を入れようとしていました。そして、町が行うスポーツ行事にも協力的だったことから、「みんながスポーツを楽しめる場をつくらう!」という思いが人と人とを結び、たくさんの方がクラブに関わってくださるようになり、この方々が中心となり地域住民で構成した5つの部会によるクラブ運営が始まりました。

さらに県の委託事業「地域と連携した子どもの体力向上支援事業」で日頃からお世話になっている方々に声をかけ、この事業に賛同してくださる団体に集まっていただき運営委員会を立ち上げました。

また、宍道地区社会福祉協議会、健康センター、来待診療所、学校、地域ボランティアによるしんじ芝生育成会、おやじクラブ、キャンドル☆ナイトinしんじ実行委員会など、様々な団体とのコラボ事業や一緒に活動することで連携が深まり、運営も軌道に乗り自主運営の基盤ができてつつあります。そして、「子どもたちの成長を手助けしよう」「イベントを通して、宍道町を一つにしよう」という思いを共有することでボランティアも増えています。

3 | 仲間が仲間を呼び様々な団体との連携にもつながる

地域住民約40名で構成している5つの部会がクラブを運営していますが、全員が会員でボランティアです。各部会で事業計画を立て事業を実施しているため、このスタイルを継続していくことでクラブを末永く運営していくことができると考えています。また定期イベントや事業を行うボランティアグループ「おやじクラブ」や「グリーンサポーターズ」は、地域の子もたちのために自ら集まったグループです。自分たちが地域の子もたちのために力になって、みんなが喜んでくれることを生きがいに活動し、仲間も増えています。また、地域の様々な団体と連携を取りながら町全体で行うイベント「キャンドルナイト」やクラブフェスタ「千人で1万個の紙ふぶきを飛ばそう」でのボランティアを募ったところ多数の団体からの協力を得ることができ、また地域の若者に声掛けしたところ仲間が仲間を呼び、ボランティアが増えていきました。このイベントでクラブの活動や思いが地域住民に知られ、理解されるきっかけとなったと考えています。今後も様々な団体と連携を取り、みんなの思いをカタチにしていきたいと思っています。



キャンドルナイトのヤングスタッフ



キャンドルナイトの告知



点火を楽しみに準備を進めるボランティア



子どもたちも楽しそうにキャンドルナイトに参加



クラブフェスタ「千人で1万個の紙ふぶきを飛ばそう」

4 | 今後の課題・展望

今後もこのような活動を続けていくために、地域になくてはならない団体となり、地域全体がスポーツや運動で「元気で活気のある町づくり」に貢献していきたくと思っています。そのために、運動をしていない年代、特に介護が必要になる前の年代に対する活動の場を提供し、介護を受けない生活が送れるように働きかけます。具体的には運動教室の充実、また、生きがいとなる活動の場を提供します。さらに、ボランティアの活動を通して、地域の子どもたちを地域みんなで育てていく仕組みを、ボランティア同士で創り出していく体制をつくりたいと考えています。そして、この活動が末永く続くよう事務局は人と人とを結ぶコーディネーターとして地域とともに歩いていきたいと思っています。

ボランティアの声

「子どもが外で伸び伸びと遊ぶ姿がみたい!」と、子どもたちに昔の遊びや自然の中での遊びを伝承するボランティアグループ「おやじクラブ」のおやじいさん(森脇喜将さん/79歳)の声ををご紹介します。

「クラブが事業のボランティアを探していた時に、力を貸して欲しいと声を掛けられたのがボランティア活動を始めたきっかけです。子どもたちが話しかけてくれたり慕ってくれたりすることがうれしくて、自分でも役に立てることがあったらいつでも協力しようと思っています。ボランティアの魅了は、みんなが喜んでくれること、ボランティアスタッフみんなで一緒にプログラムを考えたりできること、この年で、若い人たちの仲間に入れてもらえることなどがあげられます。ですから、今ではボランティア活動で得られることすべてが自分の生きがいとなっています」



おやじクラブ「どうぶあそび塾 竹水鉄砲を作ろう!」

クラブプロフィール

- 設立：平成14年3月21日(法人格取得 平成18年7月3日(NPO法人登記)
現在、仮認定NPO申請中
- 所在地：島根県松江市宍道町
- 運営：会員803名(平成26年度)、予算規模3,466万円(平成27年度)

特徴：地域住民で構成した5つの部会によってクラブを運営しています。人と人がつながり、一人一人が役割を持ち、企画運営するクラブです。そして、子どもから高齢者まで誰もが好きなことを楽しみ、みんなの笑顔が輝くスポーツを核とした町づくりを行っています。

連絡先：〒699-0406 島根県松江市宍道町佐々布204-4
TEL：0852-66-8686 FAX：0852-66-1414
E-mail：sports-shinji.no1@violin.ocn.ne.jp
ホームページ：<http://shinjiko.lets-sports.net/shinjiko-top.html>

｜ 特集 ｜

自立・自律を目指して地域に根差した活動を行っているクラブ

創意工夫で協賛店や会員を増やし、財源確保を図って自立の道を進む

NPO法人 尾花沢総合スポーツクラブ

商店街・商工会との共同活動、出前健康教室、学童保育の開設など、地域に根差すための活動を積極的に行っている「尾花沢総合スポーツクラブ」。さらに財源確保のために協賛店や会員数の増加を目指すだけでなく、新たな行政事業の受託を推進しながらクラブとして自立を果たしている取り組みを紹介します。

🔑 キーポイント

- ◎商店街・商工会との共同活動で貢献
- ◎高齢者・児童など地域住民のための献身的な活動
- ◎行政の事業を受託し、安定した運営を目指す
- ◎小学校との連携を強める

1 | クラブ概要

尾花沢市も平成12年に掲げられた国のスポーツ振興基本計画を受け、平成14年に創設推進委員会を立ち上げ、平成15年の設立準備委員会を経て、平成16年10月に「尾花沢スポーツクラブ」を設立しました。さらには平成22年にNPO法人を取得、名称も「NPO法人尾花沢総合スポーツクラブ」と変更し、現在に至っています。設立当初は、スクール部門とサークル部門に分かれ活動をしていましたが、会員の固定化により会員数の拡大が見込まれないことから、スクール部門とサークル部門の内容を精査し、教室として一本化し、より誰もが参加できるようにしました。また、平成19年からは尾花沢市運動公園の指定管理を受け、施設利用を目的とした会員制度を設定し、一部のサークルには施設利用制度を活用していただき、引き続きクラブ会員として参加していただいています。さらには、会員以外の地域の誰もが参加できるイベントも日常的な教室以外に開催しています。特に四季の表情が豊かな尾花沢の特長を生かしたイベントで尾花沢の良さを実感してもらうのが目的となっています。

2 | 地域に根差すための3つの活動

●商店街・商工会との共同活動

スポーツクラブのイベント(ウォークラリー大会)でコース選定の一つとして、商店街を歩く企画をきっかけに商店街協同組合理事長さんとの懇談ができ、活動が始まりました。

- ・商工会による「空き店舗活用事業」への参加

ウォークラリー大会の発着所や中継所、ニュースポーツの体験会場として空き店舗を活用

- ・商店街各店舗の協賛店への参加

クラブ会員への様々な優待サービスを提供

- ・地域のお祭りへの参加

体力測定や軽スポーツ・ニュースポーツを体験・紹介するブースの設置

年によっては、ウォークラリー大会の発着所としてお祭り会場を活用

これらの活動により、クラブイベントへの賞品提供など活動に広がりが出てきています。ただ、商店街の店主さんたちも高齢化で数年後・十数年後、商店街の存続が危ぶまれている状況を今後どう考えていくかが大きな課題となっています。

●出前健康教室

クラブの資格保有者やクラブ事業内容・方向性を市福祉課に説明したことにより、事業が始まり、その事業がきっかけとなり、市内各地区へ出前健康教室を行っています。市内の郡部は、特に高齢化が進み、体育館などの施設に出る手段がない方々もいます。そういう方々を対象に各地域・部落公民館等を活用しながら介護予防などの教室を開いています。

●学童保育の開設

共働き率の高い地域ということで地域の保護者からの要望がきっかけで、クラブハウスである体育館の一室を学習室兼待機室として、民設民営の学童保育を開設しました。学区の小学校の協力をいただきながら体育館への下校班を作っていただきました。管理施設の利用が少ない時間と重なるため子どもたちは、体育館などの広いスペースを使っでの運動遊びができます。子どもたちは、学校が終わると歩いて下校するため、施設のある学区の子どもたちに限られているのが課題です。



ニュースポーツ体験イベント
(デックスティックゲーム)



学童遠足 蔵王のお釜での集合写真



雪遊び体験



会員交流バスツアー
(羽黒山トレッキング)

3 | 財源確保の取り組みがもたらすクラブ内外への効果

●会員拡大

「スポーツをしない方々にもスポーツクラブの会員になってもらうには」ということで協賛店を拡大
→(会員の声)「会員証を見せるとさまざまなサービスが受けられるので、協賛店に行ってみようかなと思うようになりました」

(店舗の声)「今まで来ないようなお客さんが来るようになりました」

- ・協賛店を目的にする会員さんの増加(浸透度合いはまだまだ)
- ・協賛店の店舗数が増加(現在27店舗)

●賛助会員の拡大

尾花沢の主産業は農業です。そこで尾花沢や山形県内の産物を交流のある全国のクラブに紹介・販売することで生産者の販路拡大につながり、クラブの賛助会員になってもらう提案ができます。

→(生産者の声)「日本各地に生産物が紹介されてありがたいです」

(クラブの声)「とてもおいしいものをありがとうございます。また来年もお願いします」

※現在効果を検証中。

●行政事業の受託

教育委員会事業は当然ではありますが、健康増進課・福祉課・商工観光課などの他部局との連携を深め、新たな事業への進出を目指します。

- ・保育園への運動教室指導(新規事業)の受託
- ・買物付き健康教室の検討
- ・尾花沢オリジナル健康づくり事業運動指導(新規事業)の受託

4 | 小学校との連携を強め、存在価値の構築を推進

文部科学省の「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト事業」として小学校体育活動支援等を行った後も、一部の小学校から体育活動への支援の要請があり関係はつながってはいますが、より多くの小学校との連携を強くしたいと考えています。そのためには、教育委員会・校長会などともより一層懇談をしていく必要があると考えています。また、会員の「マイクラブ」意識の向上と、より地域になくてはならないという存在価値の構築を図る活動を推進していく必要があると考えています。
(クラブマネージャー／佐久間秀晴)

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成16年10月2日
- 所在地：山形県尾花沢市
- 運営：会員数495名(平成27年7月現在)、予算規模4,500万円(平成27年度)

特徴：幼児から高齢者まで誰もが楽しく健康に参加できる12の通年プログラムや、尾花沢の四季が感じられる各種イベントを開催しています。前出の自主事業の他、尾花沢市運動公園の指定管理、その他健康事業等の委託事業を受託し、安定した運営を目指しています。

連絡先：〒999-4224 山形県尾花沢市新町3丁目5番地35号

TEL：0237-24-0188 FAX：0237-22-1055

Eメール：fight@ic-net.or.jp

ホームページ：<http://www.obanazawa-sports-club.net/>

Facebook：<https://www.facebook.com/NpoObanazawasportsclubSLandObane>

｜ 特集 ｜

自立・自律を目指して地域に根差した活動を行っているクラブ

派遣指導者バンク制度など 地道な活動が実を結ぶ

うすねニュースポーツクラブ

派遣指導者バンクを確立し、行政からの委託事業をはじめ、他のクラブへの指導者派遣などを行い、地道に財源の確保をしながら地域に密着した活動を続けている「うすねニュースポーツクラブ」。少ない年間予算でも充実したクラブ運営ができる秘けつとは？

♂ キーポイント

- ◎派遣指導者バンクの活動
- ◎行政への積極的な働きかけ
- ◎地域に密着したスクールを開校
- ◎無理をしないクラブ運営

1 | クラブ概要

「うすねニュースポーツクラブ」（以下、クラブ）は、健康志向の高まりを背景に生涯スポーツに対するニーズが一段と多様化している中、健康づくりから競技者育成まで、目的やレベルに応じたニュースポーツの指導、普及と愛好者相互の親睦を図ることを目的とし、平成15年12月に設立しました。設立のきっかけは平成12年に策定された国のスポーツ振興基本計画。その計画にいち早く手をあげ、指導者の育成、クラブの組織づくりなど、2年間の準備期間を経て、総合型地域スポーツクラブとしてスタートしました。

設立当初はチェックボール、ターゲットバードゴルフ、ダンベル体操、パドルテニス、エアロビックの5つの単位クラブで組織し、それぞれのクラブの会員が登録をしてのスタートでした。その後、地域住民のニーズに答える形で健康推進クラブや市民の皆さんが楽しめるスポーツの普及にも力を入れるようになり、小学生を対象としたわくわくスクールや高齢者の筋トレ教室など、充実した活動を行っています。これらの活動を支えているのが、指導者を派遣する「派遣指導者バンク制度」です。

2 | クラブを継続するための鍵となる派遣指導者バンク

「派遣指導者バンク」は平成17年5月に有資格者32名でクラブ内に組織化し、平成21年にその上部組織として「指導者会」を設置しました。「しっかりとした指導者がいなければクラブとして長く存続できない」という理念のもと、クラブ設立の準備段階から指導者の育成にも力を入れてきており、現在37名の指導者が「派遣指導者バンク」に登録しています。

行政の理解とこれまでの積極的な活動によって、現在、派遣指導者バンクでは、多くの皆さんが参加する運動教室等に指導者を派遣しており、沼田市が実施しているヘルシー教室やレッツスポーツ運動教室、高齢者の介護予防事業、公民館主催の女性事業、幼稚園や小学校の交流事業の他、他の市町村の自治体が実施している事業も含め、年間を通して定期的な活動33教室に指導者を派遣しています。それらの活動がクラブ運営の自立につながっているのではないかと思います。また、小学校や中学校で行うダンスの授業への派遣要請も多く、地域や学校などとの信頼関係が培われてきたこともクラブ継続の力になっています。

なお、これらの指導者は会員として必ず単位クラブに所属し、普段のクラブ内での指導はボランティアで行っており、クラブ運営においても欠かせない人材です。

3 | わくわくスクールで地域に根差した活動の効果は大！

「放課後・週末はみんなで元気よく遊ぼうね！」「楽しい遊びをいっぱいするよ！」をテーマに、年間32回の教室が行われている「うすねわくわくスクール」。平日は昔遊び、土曜日は運動遊び、日曜日はニュースポーツ体験と3つに分かれています。

平日の昔遊びでは、地域の老人クラブ、薄根婦人会、更生保護女性会、なかよし文庫、ふれあいサポート会などに所属している人たちを講師として招いています。講師となる老人クラブや婦人会の皆さんは子どもたちへ教えるために、事前に勉強するなど前向きに学ぼうとする気持ちが芽生えるので、そういった方たちにとっても生かされる場となっています。土曜日の運動遊びでは、派遣指導者バンクの指導者のもと、体力の低下が懸念される子どもたちの体力向上のための運動や災害時の必要最低限の知識を学べる他、親子で楽しむレクリエーションなどを行い、好評をいただいています。また、日曜日のニュースポーツ体験は、ニュースポーツクラブに所属している7つの団体をはじめ、スポーツ推進委員、スポーツ少年団の協力で行われています。子どもたちにとってはいろいろなスポーツを体験できる絶好の機会となっています。

●平成27年度「わくわくスクール」日程表

曜日	平日	土曜日	日曜日
時間	15:30~17:00	9:30~11:30	9:30~11:30
内容	昔遊び	運動遊び	ニュースポーツ体験
5月	6/8 防犯教室	5/30 バラシューで遊ぼう	6/14 だんべえ踊り体験
6月	恩田自主バトロール隊	開校式	
7月	6日 自由遊び	25日 水と遊ぼう(災害時炊き出し体験)	12日 ダンベル体操体験
8月	17日 親子料理教室 ふれあいサポート会	1日 親子レクリエーション 子ども教室合同事業	
	4日 お祭り体験教室 (火) 沼田祭りに参加してだんべえ踊りを踊ろう！		
9月	7日 お花を生けよう！	5日 チャレンジ・ザ・ゲーム	27日 バドミントン体験
	13日 薄根地区運動会体験 (日) 地区運動会に参加しよう！		
10月	5日 竹とんぼ・竹馬教室 薄根老人クラブ	10日 チュック&軽スポーツ 教室	18日 ターゲットバード ゴルフ体験
11月	2日 めんこ・お手玉教室 薄根老人クラブ	14日 スポーツチャンバラ 教室	8日 エアロビック体験
12月	7日 英語で遊ぼう	5日 健康教室(新体力測定)	13日 ドッジボール大会
1月	18日 作って遊ぼう 薄根婦人会・更生保護女性会	30日 ミニトランポリンで遊ぼう	24日 自由遊び
2月	29日 絵本を読もう なかよし文庫	6日 ニュースポーツ教室	21日 わくわく卓球遊び
3月	14日 クイズで遊ぼう 開校式	12日 フットサル遊び	6日 柔道遊び



「お祭り体験教室」沼田まつりで「だんべえ踊り」を披露。ソレソレソレ



「運動遊び教室」スポーツチャンバラ 新聞紙を丸めて刀代わりに…。「エイッ！」



「運動遊び教室」子どもたちに大人気のミニトランポリン。心も体もウキウキ



チャレンジザ・ゲームで記録に挑戦

4 | 無理をしない計画を立てて運営

うすねニュースポーツクラブは、年会費3,000円（小・中学生は無料）と決して高額ではない会費で活動していますが、その中で、「無理をしない計画」を立てて運営しています。

そこで簡単にクラブの組織を説明すると、うすねニュースポーツクラブの傘下には6つの単位クラブ（薄根チュック&軽スポーツクラブ、薄根ターゲットバードゴルフクラブ、ダンベル体操愛好会、エアロビックぬまた、パドルテニスクラブ、沼田だんべえ踊り愛好会）があり、それぞれの単位クラブが週1回から2回の活動をしています。年間5回、母体であるうすねニュースポーツクラブが主催者となってそれぞれの単位クラブで教室を開き、派遣指導者バンクから指導者を派遣しています。

現在、会員は大人が103名、小・中学生が108名で、うすねニュースポーツクラブ主催の教室以外はすべて単位クラブの活動となりますが、指導者の資格を持った会員が責任を持って活動を行っています。会員はどの単位クラブの教室にも参加することができ、それぞれのスポーツを楽しむことができます。

また、これらの活動を実施するためには、活動の拠点となる施設が必要であり、行政をはじめ、学校や地域の協力を得て、薄根中学校や薄根小学校の屋内運動場等を中心に活動を展開しています。

5 | 今後も伸び伸びとした活動を！

まだまだ総合型地域スポーツクラブの存在や活動が周知されていないため、その活動が幅広く全国に広がっていくことを願っています。

そのためにも、うすねニュースポーツクラブとして、今後も地域に根差した活動を積極的に展開するとともに、会員を中心に伸び伸びした活動を行っていきたいと考えています。

(クラブマネジャー／小野里順子)

クラブプロフィール

- 設 立：平成15年12月3日
- 所在地：群馬県沼田市
- 運 営：会員数211名(平成27年8月現在)
予算規模524,000円(平成26年度)
- 特 徴：地域スポーツの普及を目指し、チュークボール&軽スポーツ、ターゲットバードゴルフ、ダンベル体操、エアロビック、パドルテニス、だんべえ踊り等の定期教室のほか、スポーツ少年団の活動、わくわくスクール、健康教室、各種イベントなど地域に根差した活動を行っています。また、派遣指導者バンク制度により指導者派遣にも力を入れています。

連絡先：〒378-0063 群馬県沼田市下沼田町733-1 沼田市薄根公民館内
TEL：0278-22-3160 FAX：0278-23-7515
Eメール：onozatoj@mail.wind.ne.jp

｜ 特集 ｜

自立・自律を目指して地域に根差した活動を行っているクラブ

体育協会や他クラブとの連携を力に 会員の会費による安定した運営

城下町スポーツクラブ

「城下町スポーツクラブ」は助成金などに頼らない、会員の会費によるクラブ運営を行っているクラブです。行政や市体育協会、他の総合型スポーツクラブとの連携も強く、指導者派遣や地域に根差した活動を地道に行っています。

🔑 キーポイント

- ◎公認スポーツ指導者による指導と指導者派遣
- ◎「体験会」「イベント」開催による知名度アップ
- ◎行政や体育協会との連携・バックアップ

1 | クラブ概要

城下町スポーツクラブ（以下、城下町クラブ）は、平成18年1月に小田原市・足柄下郡スポーツ指導者協議会の有志が設立準備委員となり、クラブ設立の準備を開始しました。

平成18年度・19年度には日本体育協会の「育成指定クラブ委託事業」を実施し、平成20年6月に「城下町スポーツクラブ」を設立しました。

「会員相互の協力により、地域住民の健康増進、スポーツを通じた青少年の健全な心身の育成と地域の活性化、スポーツ指導者の活躍の場の創造を図ること」を理念として活動しています。

また、日本体育協会公認スポーツ指導者資格を持った指導員が約25名在籍し、クラブ外への指導者派遣にも力を入れています。

2 | 会費だけでクラブ運営

助成による収入がほとんどないため、収入はほぼ会費のみです。大人が月額2,000円、子ども1,500円で、会員は月曜日・木曜日に行われているどのスポーツ教室にも参加可能です。ただし、ソフトテニスは外のコートを使用し、天候に左右されるため、1回500円のチケット制で行われています。また、会員でない方が参加できる体験教室も1回500円で行っています。

活動場所は、小田原アリーナをメインに、小田原テニスガーデン、東富水小学校、富水小学校、三の丸小学校の体育館を使用しています。小学校の体育館は、いずれも学校施設開放により無料です。一方、小田原アリーナは週2回使用していますが、優先使用が可能となっているのみで減免はなく、体育館半分のスペース・卓球台・バドミントン用具を含めた使用料を支払っています。その他に、フィットネススタジオやテニスコートも通常の利用料を支払い使用しています。

会員を増やすための活動としては、年に1回、小学生を対象とした「体験会」を2週間行っており、そのためのチラシを市内のすべての小学校の児童に配布しています。体験会の効果は大きく、今年も約40名の小学生が会員として入会してきました。

設立当初は、地域から生まれたクラブではないため、地域に密着するかどうか不安を抱えてのスタートでした。しかし、スポーツをやったことがない人や、学生時代にスポーツをやっていた人が昔を思い出し、時間にゆとりができた退職後などに入会するケースも増えてきました。

また、スポーツだけでなく、お楽しみイベントとして、ハイキングやサツマイモ作り、バーベキューを行うなど、地域に生まれた活動も続けられています。特に、昨年まで行っていたサツマイモ作りでは、畝作りに始まり、苗植え、草むしり、収穫、そして育てたサツマイモを食べるという食育を兼ねたイベントでした。今年からは、収穫手のいないみかん畑でのみかん狩りに変わりますが、今後も食育を兼ねたイベントを続けていく予定です。

●平成27年度事業計画

①各種スポーツ教室の開催 ・卓球（初心者卓球教室・小学生卓球教室） ・バドミントン（エンジョイバドミントン・小学生バドミントン教室） ・ソフトテニス（ためしてソフトテニス） ・エアロピクス&ストレッチ（らくらくエアロ&ストレッチ） ・ダンベル体操 ・おやこたいそう ・東富水小学校体育館開催のスポーツ教室（バドミントン・初心者ジョギング） ・富水小学校体育館開催のスポーツ教室（バドミントン・らくらくエアロ） ・三の丸小学校体育館開催のスポーツ教室（ジュニアバドミントン）
②イベント開催 ・親睦ハイキングツアーの企画開催 ・親睦みかん狩りの企画開催
③小田原市・公財）小田原市体育協会・KSN等スポーツ関係団体との協力・連携 ・小田原市スポーツ課との体験会の開催 ・キッズマラソン大会のスポーツイベント協力 ・KSN交流会へ参加・協力
④地域住民の交流の場の提供やボランティア参加 ・親子ふれあいの集い ・早川河川の清掃事業の協力
⑤県スポーツ課の依頼事業 ・西湘体育センター開催のスポーツコミュニケーションデー指導者派遣 ・3033運動の開催
⑥スポーツに関する講習会、研修会の開催
⑦スポーツ指導者の育成 ・公認スポーツ指導者資格取得支援 ・県西地域スポーツ指導者協議会主催の義務研修の協力
⑧PR活動 ・広報誌掲載

※KSN=神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク

3 | 指導者もスキルアップを図る

スポーツ指導者協議会の有志が設立した城下町クラブは、「指導者の活躍ができる場を作ろう」「指導力を生かしてスポーツ人の底辺の拡大をしていこう」というのがモットーとなっています。そのため、エンジョイバドミントン、初心者卓球教室、ダンベル体操教室、らくらくエアロ&ストレッチなど、城下町クラブの会員は日体協公認スポーツ指導者の資格を持った指導員による指導がいつでも受けられます。また、城下町クラブの指導者は、神奈川県立体育センター、小田原市体育協会の依頼事業や他の総合型クラブの要請で指導に出かけることも多く、体協や他クラブと連携しています。指導者の活躍の場を広げるため、指導者自身も指導力を上げるために審判の資格を新たに取得したり、個人的にエアロビ教室に通ったり、ジュニアスポーツ指導員の資格を取ったりと一層のスキルアップを図っています。



らくらくエアロ&ストレッチ教室



初心者卓球教室の様子

4 | 運営の力となっている行政や体育協会との連携とバックアップ

活動場所のメイン会場となっている小田原アリーナには小田原市体育協会と小田原市スポーツ課の事務局が併設されており、職員の皆さんとコミュニケーションを密に取ることができます。このことはクラブ運営の大きなキーポイントとなっています。先日もスポーツ課と地域政策課が合同で企画したラジオ体操に、城下町クラブから指導者を派遣しました。その様子は小田原市の広報誌でも紹介されています。また、神奈川県では30分間、週に3回、3か月間継続して運動を行い、スポーツを暮らしの一部として習慣化する「3033（サンマルサンサン）運動」を推進していますが、神奈川県体育センターの依頼により3033運動普及員の資格を持った城下町クラブのスタッフ15～16人を派遣し指導を行っています。

その他、体験会用のチラシやクラブのカレンダー制作などの際には小田原市スポーツ課の印刷機の使用をはじめ、市体育協会の行事ではイベントの企画を担当させてもらうなど、体育協会および市との連携とバックアップがクラブ運営において大きな支援になっています。



小田原市の広報誌にラジオ体操の企画が掲載された



5 | 後継者づくりが今後の大きな課題

会費収入でクラブの運営を賄っていますから、指導者への謝金も決して高くありません。スタッフもパート代のみで、会場の使用料を支払うと運営費を使い切ってしまうのが現状です。今のスタッフがこの現状に慣れてしまい満足していることに危機感を覚えます。これでは将来を担う若者の雇用が困難であり、今後の大きな課題となっています。しかし、高齢者や子どもたちに負担のかからない会費を考えると、現状の会費を値上げすることはできません。また、会費の銀行振り込みや引き落としもお年寄りにとっては不便なことから、月謝袋で現金で集金という形をこれからも継続していくつもりです。課題はありますが、スタッフである私たちにとって城下町クラブの運営はある意味生きがいの一つとなっています。

(クラブマネージャー／野田ひろみ)

クラブプロフィール

- 設立：平成20年6月29日
- 所在地：神奈川県小田原市
- 運営：会員数250名(平成27年6月現在)、予算規模420万円(平成26年度)
- 特徴：公認スポーツ指導者の資格を持った指導員が多数在籍しており、城下町クラブだけでなく要請があればどこへでも指導に出かけています。また、運営スタッフ13人中11人が女性で、細かいところまで心配りのできるクラブです。

連絡先：〒250-0872 神奈川県小田原市中里19-4 川口喜代美気付
 TEL：090-8683-5444 FAX：0465-42-4643
 Eメール：hikiyomi000@hotmail.com
 ホームページ：<http://jsc-odawara.sakura.ne.jp/>

｜ 特集 ｜

行政・教育機関・自治会と連携した 活動を行っているクラブ

人と人の“横のつながり”をきっかけに 広がっていったクラブの事業・活動

さんのヘスポーツクラブEnjoy

公民館の健康対策事業への参加をきっかけに、町役場の健康推進課から委託事業を受けるなど、徐々にクラブの活動が広がっている「さんのヘスポーツクラブEnjoy」。「生き生き教室」などの介護予防事業やスポーツフェスティバルを行い、行政との連携を強める取り組みをご紹介します。

♂ キーポイント

- ◎公民館とのつながり
- ◎健康寿命を延ばす活動
- ◎スポーツフェスティバル開催で認知度アップ

1 | クラブ概要

平成13年に三戸町（青森県三戸郡）において「第1回さんのヘアップルラージボールオープン大会」が開催され、全国から400人規模の参加がありました。参加者から「大会を開催していながら、町にラージボール卓球のチームがないのが非常に残念」という声が聞かれたことをきっかけに、現在のクラブの会長やクラブマネジャー、町教育委員会、町卓球協会の協力を得て、有志でラージボール卓球を始めました。それが現在のクラブの土台となって、平成24年に「さんのヘスポーツクラブEnjoy」（以下、クラブ）が設立されました。

2 | 健康対策事業参加により口コミで広がるクラブの存在

クラブの副会長が町の消防団の副団長やスポーツ推進委員を務めており、副会長が所属している消防団の団付分団長が公民館分館の館長を務めていることから、横のつながりが生まれました。最初は、その公民館分館の館長の紹介で、町内会で実施されている公民館の健康対策事業に参加させてもらい、今では高齢者を対象とした健康教室を定期的に行っています。この活動により、教室やクラブの存在が徐々に口コミで広がりを見せています。

また、この公民館との連携がきっかけになり、町役場健康推進課が各町内会で行っている健康教室の一部にも参加して、クラブのPR活動やニュースポーツの紹介なども行っています。

3 | 健康寿命を延ばす取り組みを推進

三戸町は県内の中でも高齢者の医療費が高く、健康寿命を延ばすことが課題でした。現在、役場から委託を受け、介護予防事業として「生き生き教室」を行っています。この教室の参加者は、60代～80代が中心ですが、90代後半の高齢者も参加しています。3～4人のスタッフが手厚く対応できるように、曜日毎に参加する地域を分けて、少人数の10人～20人程度が参加し、全体では80名ほどが参加しています。

手先や脳のトレーニングとなる軽スポーツから始まり、座ったままでできる「いきいき百歳体操」で手足の筋力トレーニングを整えるプログラムとなっています。



熱心に指導するスタッフ



「いきいき百歳体操」の様子



元気いっぱいのクラブスタッフ

生き生き教室 8月予定表											
【曜日】 月・火・水・木・金・土・日											
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日
運動	運動	運動	大きな声で歌えば元気101倍♪	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動
運動	運動	運動	夏うた手遊び	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動
運動	運動	運動	12日 懐かしい映画で青春時代を思い出そう...	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
運動	運動	運動	映画鑑賞	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動
運動	運動	運動	19日 運動で脳も身体も若返り!	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日
運動	運動	運動	クロリティーゲーム	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動
運動	運動	運動	26日 「いきいき百歳体操」で使うよ!	27日	28日	29日	30日	31日			
運動	運動	運動	体操おもり作り	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動	運動
運動	運動	運動									

◎自宅で体操が出来たら、しっかり○をつけましょう! 又、お休みする場合は、必ず連絡をして下さい。
 さんのホームページ「生き生き教室」電話23-3210 (担当: 松原・中野・工藤) 携帯090-1664-7300 (松原)

「生き生き教室」のプログラム

4 | 健康推進課とクラブとの連携協力体制の構築

町役場の健康推進課から委託事業を受けたことによって、健康推進課とクラブの連携協力体制が出来上がり、クラブ主催の事業やさまざまな場面でクラブの名前があがるようになり、事業の幅が広がっていくことが期待されます。

現在はこういうのはクラブでできないだろうか等の提案も健康推進課からされるようになり、クラブと行政が町民の健康について一緒に考えていくような雰囲気が醸成されつつあります。

5 | 参加者のリピート率の向上で認知度もアップ

最初は、町内でのクラブの認知度が低かったため、「Enjoy って何？どんな団体？」という雰囲気が健康推進課内にありました。しかし、さまざまな活動をした結果今では毎年2回実施しているクラブ主催のスポーツフェスティバルで、健康推進課から運営面での協力を徐々に得られるようになりました。

スポーツフェスティバルは子どもから高齢者まで、体力測定や健康チェックを実施しています。自分の体力を知りたいと参加者のリピート率も高く、クラブにとってはクラブの認知度向上に良い結果をもたらしています。

6 | 保育園や幼稚園との連携を図ってさらなる発展を

高齢者向けのものとしては、町内会単位でのニュースポーツ体験や健康教室の広報・周知を継続し徐々に協力してくれる町会を増やしていくことが目標となっています。

また、未就学の幼児を対象として、保育園や幼稚園との連携を図っていきたいとも考えています。例えば、月に2回程度ボールを使った遊びの教室や、ニュースポーツ体験等を通じて体を動かすことの喜びやゲームを通じた楽しさを教えます。小さい頃から、クラブを通じてスポーツとの触れ合いをもたせて、将来的にクラブへ抵抗なく参加できる状況を作り上げていきたいと思っています。

(クラブアドバイザー／佐藤龍哉)

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成24年3月24日
- 所在地：青森県三戸郡三戸町
- 運営：会員数177名(平成27年7月現在)
予算規模1,500万円(平成27年度)
- 特徴：卓球・サッカーの選手育成部門のスクール事業と、年齢を問わず誰でも楽しく参加できる部門のサークル事業の二本立てで活動を行っています。その他には、リズム感を養うヒップホップダンス教室や健康維持を目的とするストレッチや貯筋体力づくり教室等、また文化活動としてパソコン教室を実施しています。平成26年度からは三戸町役場健康推進課より介護予防事業の委託業務や、三戸町教育委員会から施設受付業務委託を受託しています。

連絡先：〒039-0141 青森県三戸郡三戸町川守田字関根4-11
TEL/FAX：0179-22-2503
Eメール：s.sports-club.enjoy@bell.ocn.ne.jp
ホームページ：<http://ssce.web.fc2.com/index.html>

| 特集 |

行政・教育機関・自治会と連携した 活動を行っているクラブ

出前型体操教室やノルディックウォーキングを 開催して地域との連携を深める

NPO法人 さばえスポーツクラブ

安定したクラブ運営に欠かせないのが行政・教育機関・自治会と連携した活動ですが、会員数1,100人を超える大型スポーツクラブの「さばえスポーツクラブ」においても同様です。提案型市民主役事業を受託し、出前型健康体操教室やノルディックウォーク教室を開催して地域との連携を深めています。その取り組みをご紹介します。

🔑 キーポイント

- ◎ リスタート・フレッシュアップ事業の受託
- ◎ 健康教室の開催で高齢者の会員も増加
- ◎ 競技がつないだ“人”と“クラブ”の輪
- ◎ それぞれの役割を明確化

1 | クラブ概要

『自由に楽しく気軽に参加できて、互いに教え合い学び合い、いつでもできる交流クラブ』を理念に掲げ、地域住民が自分たちの手でつくるスポーツクラブです。15健康教室、15スクール、23サークルの活動を展開しており、子どもから高齢者まで、その時々好きなスポーツを自由に楽しめるクラブです。

家庭や学校といった垣根を取り外し、子どもは地域で育てるというスポーツを通した地域づくりを目指します。スポーツを続けてきた人はもちろんのこと、初めてスポーツをする人も気楽に入会でき、従来の枠にとらわれず、専門の指導者から年齢に関係なく一貫した指導をそれぞれのレベルに応じて受けることができます。また、平成25年度からは、文部科学省より委託されている『地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト』を実施（今年で3年目）し、地域の小学校や中学校の体育支援、地域のスポーツ少年団へトップアスリートを派遣して地域・学校との連携を深めています。

2 | きっかけはリスタート・フレッシュアップ事業の受託

鯖江市が、鯖江市民の自治力を高めることを目的として実施している提案型市民主役事業の中で、スポーツ課が募集するリスタート・フレッシュアップ事業を受託したことが、行政と自治会、他団体と連携していくきっかけになりました。

応募にあたっては、当クラブは、文部科学省の「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」を福井県内で初めて受託したクラブでもあり、事業に対しての柔軟さや臨機応変に対応できる力があること、また、サポートする理事・ボランティア・インストラクターなどの体制があることにより、事業終了後の受け皿があることを特色としました。

※リスタート・フレッシュアップ事業とは、肥満による生活習慣病やメタボリックシンドロームの危険性が叫ばれている中で、戦後世代が一斉にリタイヤ（退職）する時代を迎え、定期的なスポーツへの取り組みを促進し、健康づくりの基盤を提供し、健康長寿命化に資することが目的です。

3 | 出前型健康体操教室の開催と他クラブとの連携

リスタート・フレッシュアップ事業として、以下の活動を行っています。

●鯖江市内各地区の公民館を利用し、出前型健康体操教室を開催

高齢者が参加しやすいように、地域の公民館を利用し、出前型の健康体操教室を開催しました。市の事業の一環で利用するため、市の管轄である公民館ともスムーズに連携が取れています。



公民館を利用して出前型健康体操教室を開催



高齢者のための出前型健康体操教室の様子

●ノルディックウォークを通じて、他市のスポーツクラブと連携

誰でも参加しやすく、運動するきっかけとして始めやすいウォーキングと、2本のポールを持つだけで運動効果も格段に上がるノルディックウォークに着目してノルディックウォーク教室を開催しました。ノルディックウォークの指導資格を持つ、せいきコミュニティスポーツクラブ（勝山市）の四谷憲夫氏に指導をお願いしたことで、総合型地域スポーツクラブ同士の連携にもつながりました。

また、自治会が開催するウォーキングイベントにノルディックウォークで参加することもでき、イベントの盛り上げとともにノルディックウォークとクラブのPRをすることができました。



2本のポールを持って歩け歩け。ノルディックウォーク教室



ノルディックウォークのイベントの様子

4 | 健康教室への参加者増加と広がるクラブの輪

●60歳以上の健康教室への参加者が増加

各地区・地域の公民館に出向いて健康教室を開催することで、60歳以上の方の健康教室参加者が増加し、クラブが通常開催している健康教室への参加者数増加にもつながりました。さらに会社や一線をリタイヤした人たちが気軽にスポーツを親しみ、定期的な運動習慣を身につける『きっかけ』づくりのための、健康教室を開催することができました。

●ノルディックウォークがつないだ“人”と“クラブ”の輪

ノルディックウォーク教室は、毎回大勢の方に参加していただき、その参加者の中からせいきコミュニティスポーツクラブが主催するウォーキングイベントに参加する方ができました。ノルディックウォークの普及を考えていた四谷氏と、クラブ同士お互いにメリットがある連携が取れたと感じています。また、教室を通して鯖江市内にノルディックウォークの指導者が2名誕生しました。さらに、さばえスポーツクラブ15周年記念事業の一環でトップアスリート（葛西紀明氏／スキージャンプ）の講演会をせいきコミュニティスポーツクラブと共催で開催することができました。

5 | それぞれの役割を明確にして活動

行政から委託事業を取ってくるのは、それを得意とする事務局の役割であり、出前型健康教室やノルディックウォーク教室の講師には、専門分野である内容やプログラムをすべてお任せしました。

行政や事務局、講師のそれぞれの役割を明確にすることで、事業を円滑に進めていくことができました。

6 | 委託事業終了後の活動にも意欲満々！

委託事業終了後は、出前型健康体操教室の開催会場（公共施設）を増やし、受益者負担で教室を開催できるよう進めていきます。ノルディックウォーク教室についてはクラブのサークル団体として登録し、活動を継続していけるよう考えています。

この事業を通して人と人とのつながりの大切さを改めて実感しました。行政や自治会、他団体とのつながりには、人と人とのつながりが不可欠だと思います。（さばえスポーツクラブ事務局／中場英樹）

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成12年9月1日設立（法人格取得 平成14年5月7日）
- 所在地：福井県鯖江市
- 運営：会員数1,109名（7月25日現在）
- 特徴：『自由に楽しく気軽に参加できて、互いに教え合い学び合い、いつでもできる交流クラブ』を理念に掲げ、地域住民が自分たちの手でつくるスポーツクラブです。子どもたちから高齢者まで、その時々好きなスポーツを自由に楽しめるクラブです。家庭や学校といった垣根を取り外し、子どもは地域で育てるというスポーツを通した地域づくりを目指します。

連絡先：〒916-0045 福井県鯖江市宮前2丁目9-1

TEL：0778-51-8618

Eメール：sabae-sc@dune.ocn.ne.jp

ホームページ：<http://sabae-sc.or.jp>

｜ 特集 ｜

行政・教育機関・自治会と連携した活動を行っているクラブ

幅広いジャンルでの活動が 多岐にわたる連携を生む

NPO法人 クラブおおづ

スポーツ振興はもちろんのこと、地域の課題を解決するために具体的に事業化を検討し、実践している「クラブおおづ」の取り組みは、他クラブにとっても大いに参考になるものです。地域の各種機関・団体と連携することになったきっかけ、連携するまでの取り組み、具体的な活動をご紹介します。

♂ キーポイント

- ◎地域の課題解決のための具体的な事業化
- ◎観光協会への積極的な提案
- ◎幅広いジャンルの活動
- ◎コーディネート力とマネジメント力

1 | クラブ概要

平成15年のクラブ設立当初は「ジュニア育成」の場としての役割が大きかったのですが、現在では町民の健康づくりの場として大きな役割を果たすようになりました。

主な事業としては、スポーツサークル啓発事業、学校サポート事業、健康推進事業を行っています。本年度は「クラブ活動で大津町ライフを楽しもう！」というキャッチフレーズで、会員だけではなく町民全体を対象とした事業を展開しています。

2 | 各種機関・団体と連携し、地域の課題を解決

「NPO法人クラブおおづ」（以下、クラブ）は、スポーツ振興はもとより、地域の課題解決をどう実践していくかを常に模索しています。クラブが所在する大津町は、「健康づくり」と「観光」に力を入れており、クラブとしては、町の振興総合計画や方針について徹底的に読み込み、地域課題の解決のため、具体的に事業化を検討します。

徹底的にクラブで話し合い、企画書として行政に提案します。企画書の作成にあたっては、健康運動指導士や指導者資格を有するクラブスタッフの専門知識をフルに生かし、「公共事業」として取り組めるよう、より具体的かつ効果的な事業を検討して進めています。

また観光については、2年前に「肥後大津観光協会」が設立されましたが、観光協会の委員としてクラブから参入しています。観光協会と連携した「スポーツコンベンション」に力を入れており、食育事業の展開を行い、健康に良い食品などの商品開発等も手がけています。これも、ヘルスツーリズムの観点から、観光協会や大津町の食品を扱う商店の方々に、商品開発の提案や相談を持ちかけ、協議するなどクラブからの積極的な提案によるものです。

3 | 活発に行われている多くの事業・活動

◇行政や自治体などと連携して以下の事業を行っています◇

●食育／ヘルスツーリズム事業／700,000円(予算)／商工会から委託

- ・食育推進リーダーの育成、翔陽高校の食物科と連携し、人材育成講習会を行う
- ・フットパス×食育事業として、街歩きをした後に、体にいい食事を提供し運動と食育の推進

●健康推進事業／6,250,000円(予算)／大津町から委託

- ・In Body測定会(年間18回)
- ・貯筋ステーション教室：貯筋運動プロジェクト(年間62回)
- ・教室フォローアップ教室：In Body測定会経過モニタリング(年間10回)
- ・夏休み特別教室：ラジオ体操と朝トレーニングを組み合わせでの事業展開(年間47回)
- ・健康推進大会：InBody測定、かみかみメニューの提案、食育リーダーアンケート調査(年間1回)
- ・生活習慣病予防教室：(年間12回)
- ・個別相談、プログラム作成：新規の運動・栄養、歯科口腔の個別相談とプログラム作成(21人に対して実施)
※実施回数、参加者等は平成26年度3月末実績

●夏休み学校プール開放事業／1,000,000円(予算)／PTAから委託

- ・PTAと連携し、夏休みのプール開放事業にクラブからプログラム提供及び人材派遣(5小学校)

●運動療育事業／600,000円(予算)／児童発達支援センターから委託

- ・平成27年度から、若草児童学園からクラブに直接委託、月10日ほど運動指導訪問を実施
※平成26年度：クラブから週1回、白川おひさまクラブ(別の児童発達支援センター)にクラブからスタッフが事業所との連携や実施訓練、勉強として訪問実績あり



健康推進事業（運動指導）



健康推進事業（栄養指導）



親子で栄養指導を受ける



子どもたちの着衣水泳の様子

4 | 会員の増加や行政・他団体との連携が新たに生まれる

クラブが、自治体やその他団体と連携することによって、さまざまな効果が生じます。例えば、自治体等との連携事業への参加がきっかけで、クラブ会員になれる方がおられ、クラブにとってはPRの機会となっています。また、さまざまな事業を行い、実績を残すことによって、行政からの信頼を得られ、そこからさらなる事業展開にもつながることで、人件費の確保ができ、新たな雇用が生まれます。財政的にも大変よい影響があると言えます。

クラブとしては、スポーツ・観光・健康づくり・町づくり・食育など、幅広いジャンルの活動を行っているため、行政をはじめ、さまざまな団体とリンクし、連携が生まれています。

5 | 想像から創造へ。クラブの力をいかに発揮できるか

冒頭にも述べたとおり、町の描く姿にどれだけクラブの活動をリンクさせ、地域を豊かにする手立てを考え、事業として実践していくかが重要なポイントです。

クラブは町の振興計画にあげられた内容をしっかり読み込み、事業に落とし込みます。それには大変な時間がかかり、検討が必要です。

さらに行政を納得させるためには、具体的な事業計画、効果を明示しなければいけません。

どれだけ地域をイメージし、想像から創造に変えられるかがクラブの力の見せどころだと思います。また、結果を分かりやすく示すためには数値化やデータ処理が必要です。クラブ単独では難しいので、そのようなときは、地域の専門家の力を借ります。

クラブは、理念に沿った事業を町の計画に基づいて実践し、そのために地域をどうコーディネートし、マネジメントしていくかが期待される組織であり、その能力が必要だと思います。

（クラブアドバイザー／太田黒尚子）

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成15年4月27日
- 所在地：熊本県菊池郡大津町
- 運営：会員数400人（平成27年8月現在）
予算規模14,195,621円（平成26年度実績）
- 特徴：大津町には、生涯スポーツの拠点となる運動公園（スポーツの森・大津）施設があり、公園内には球技場、競技場、多目的広場などサッカーができる天然芝ピッチ4面、総合体育館（メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニングルーム）及び弓道場が配置されています。この運動公園を有効活用するため、行政とクラブおおづとの協働による町民の健康推進事業やスポーツツーリズムに取り組んでいます。

連絡先：〒869-1217 熊本県菊池郡大津町森1000 大津町運動公園内
TEL/FAX：096-294-2922
Eメール：clubozu150427@yahoo.co.jp
ホームページ：<http://clubozu.com/>

| 特集 |

クラブの危機を未然に防ごう！

ピンチをチャンスに変えるため クラブの現状を徹底的に確認・分析

八郎潟町総合スポーツクラブ

八郎潟町はトップアスリートを多く輩出しているスポーツが盛んな地域です。その土地柄、競技志向の強いスポーツ団体が多かったため、総合型地域スポーツクラブを設立したものの、早くも2年目には厳しい運営状況に追い込まれました。そこで、「総合型地域スポーツクラブの自立・自律に向けたチェックリスト」を活用するなど、危機を回避するための取り組み、具体的な活動をご紹介します。

🔑 キーポイント

- ◎チェックリストを活用
- ◎運営体制の強化
- ◎クラブ色を意識した活動
- ◎会員確保と財源確保の検討

1 | クラブ概要

八郎潟町は人口6,242人（平成27年9月現在）の秋田県内でも小さな自治体です。町体育協会を基盤組織として、平成19年3月より、地域住民に「より身近にスポーツを親しめる機会を」とのことから総合型地域スポーツクラブ（以下、クラブ）創設に着手し、平成21年度に設立しました。

2 | スポーツが盛んな町が故に危機に直面

八郎潟町は数多くのトップアスリート（オリンピック選手4人、プロ野球選手、インターハイ、国体優勝者、甲子園球児、全国中学校大会優勝選手など）を輩出するスポーツの盛んな町であり、特に競技スポーツは群を抜いて活躍がめざましい地域です。

そういった土地柄を背景に「地域の乳幼児から高齢者、障がいの有無に関わらず、すべての地域住民に対し、スポーツを通じて、健康、福祉、子育て支援ならびに地域交流の普及と振興、育成に関する事業を

行い、地域住民の生活の向上に寄与する」ことをクラブの理念として設立しました。そして、地域住民に理解と浸透を図り、クラブの定着をめざしてフォーラムの開催、町民のスポーツニーズ調査、教室、イベントの開催などを行いました。

しかし、なかなかクラブの浸透は容易ではありませんでした。クラブが浸透しなかった原因としては、町内のそれぞれのスポーツ団体の活動が活発なうえ、競技志向が強く、別途会費を支払ってまで総合型クラブへ加入する必要があるのかという思いを持つ町民が多かったことが考えられます。そして、設立して2年目（平成25年）ごろから活動が停滞してしまいました。そこで、立て直しを図るため、平成26年度に日本体育協会が発行した「総合型地域スポーツクラブの自立・自律に向けたチェックリスト」を基に、緊急対応クラブとして総合チェックを行いました。

3 | クラブの現状をチェックするなど、積極的な対策を実施

●チェックリストでクラブの現状を確認・分析

「総合型地域スポーツクラブの自立・自律に向けたチェックリスト」を使用し、以下の項目についてクラブの現状の確認・分析を行いました。

- ・地域住民の理解・把握（新規会員・参加者の確保）
- ・アクセスのしやすさの把握、見学・体験のしやすさの把握
- ・会員や参加者の理解・把握（会員・参加者の定着や潜在的なニーズの把握、十分な説明ができてい
- るかを
- 確認）
- ・他団体との連携体制の確立（他団体に提供できる自分たちのクラブ資源の把握）
- ・コミュニケーション戦略の立案（地域における広告効果の検証、新規会員・参加者に対する広告効果の検証など）

●運営体制の強化（事務局、役員構成など）

事務局が教育委員会にあり、担当職員の異動に伴う活動停滞などがあったことから、クラブ独自の事務局体制をめざしました。その一環として、クラブの理事がアシスタントマネジャー養成講習会へ参加したり、クラブ担当部局でもある教育委員会との連携を綿密に行いました。スポーツ推進委員の会議や町体育協会の総会・理事会等においては、クラブについて説明する場を設けるなどしてクラブへの理解を深めてもらう取り組みを行いました。



運営委員会の様子

●クラブ色を意識した活動（各種教室、イベント、広報活動など）の実施

基盤組織色（体育協会）が強すぎ、クラブ色の見えない部分などにより、地域住民に浸透しないことが活動停滞、マンネリ化などの要因でもありました。そのことから、クラブ色を意識した教室・イベント・広報活動を実施したほか、あえて設立間もない先進クラブを視察したほか、クラブ設立時の原点に戻り研修も行いました。また、秋田県総合型クラブ連絡協議会主催の「県央地区クラブ交流会」を八郎潟町で本クラブが主管で計画するなど、積極的な活動を行っています。

そのほか、ニュースポーツを取り入れたスポーツフェスティバルやウォーキングを開催し、競技志向の強いスポーツ団体へクラブに対する理解を求める活動も行っています。

●会員確保と財源確保の検討

競技志向の強さと総合型クラブの理念の認知度不足等により、クラブ設立当初の会員が退会するという現象が起きました。クラブ自立に向けては会員増加による財源確保は必要不可欠要素と考えていることから、各スポーツ団体が一堂に会し、さまざまなスポーツに触れる機会を作るスポーツフェスティバルを開催し、地域住民へのクラブの啓発に努めています。



スポーツフェスティバルを開催

4 | 競技力の強さを生涯スポーツに展開！

今後は、単年度、中期（3年、5年）、長期（8年、10年）でマスタープランの具体的な計画をしていく予定です。

特に「具体的な対策」については、行っただけで満足せずに地域住民の目線を大切に町広報誌にスポーツクラブ会員募集記事を掲載し、クラブをPRするなどの啓発、啓蒙に努めていきます。

これまでのピンチをチャンスにする力が、この地域にはあります。競技力の強さを生涯スポーツにつなげられるよう、「動くか」「動かないか」を常に分析し、何から始めるかが進歩への道でもあります。そして、総合型クラブが町のスポーツ振興計画へ位置付けられていることを念頭に置き、活動を行っていく方針です。

5 | 地域とともに前進あるのみ

まだクラブ運営のすべてに予断を許さない状況ですが、前に進む姿勢がクラブから見えます。地域のためにも、地域とともに「八郎潟町総合スポーツクラブ」は生涯スポーツ社会の実現に向けて、中核的組織として、地域に作るのではなく、地域で作るクラブ作りを続けていきます。

（事務局長／鳴海一元）

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成22年3月26日
- 所在地：秋田県南秋田郡八郎潟町
- 運営：会員数64名（平成27年9月現在）、予算規模54万円（平成27年度）
- 特徴：町体育協会を基盤組織に総合型クラブを設立、地域住民のニーズに応じた独自事業の開催、また、自治体、体育協会等との連携事業を行い、生涯スポーツ社会の実現に向けて中核的な組織として活動をしている。

連絡先：〒018-1692 秋田県南秋田郡八郎潟町字大道80
TEL：018-875-5810 FAX：018-875-5950
事務局長 鳴海 一元

| 特集 |

クラブの危機を未然に防ごう！

クラブの本質を考え、問題解決に導く

NPO法人 スポーツドアあずま

クラブ運営のための安定した財源確保は、どのクラブにとっても常に最大のテーマになりうるものです。日本スポーツ振興センター等からの助成金を得ることはできますが、それにも期限があります。東京都墨田区にある「スポーツドアあずま」は、totoの助成金を受けながらも、来るべき助成金終了後を見越して、会費の値上げを実施しました。ここではよりよいクラブを継続して運営するために、彼らが起こしたアクションをご紹介します。

🏆 キーポイント

- ◎年間パスポート制の導入で安定した財源確保
- ◎区と連動した幅広く丁寧な告知
- ◎分析による現状把握が問題解決の一步
- ◎クラブ内でクラブに必要なものを共通認識する

1 | クラブ概要

私たちのクラブは「スポーツやレクリエーションをみんなで楽しむクラブ」として、墨田区教育委員会事務局スポーツ振興課が中心となり、平成17年6月に設立しました。現在9競技16種目を実施し、子どもから高齢者まで、また初心者からトップアスリートまで、地域の誰もがいつまでも活動できる環境をめざしています。

墨田区では既存クラブへの支援として、会計、広報、拠点獲得、法人化、講師調整等の運営全般へのアドバイスを、「クラブアドバイザー」を通して行っています。都道府県単位のアドバイザーではなく、区のクラブルームに配置することできめ細やかなアドバイスができ、アドバイスを受けるクラブも迅速に、かつ確かな基盤を作ることができています。

2 | 値上げのきっかけは拠点の移動

クラブの拠点となっている「八広地域プラザ」は、区立第五吾婦小学校が建っていた場所で、当初は廃校した小学校をクラブの拠点にしていました。しかし平成22年に同校の取り壊しが実施されたため、拠点の移動を余儀なくされ、会員数も大幅に減少しました。区が中心となって立ち上がったクラブということもあり、1回の参加につき100～300円の参加費を徴収していましたが、実際は区からの助成金を切り崩すような運営を強いられていました。そこに会員数の減少が重なったため、同年初めて「会費の値上げ」が検討されることになりました。

最初は100円の値上げすることにも反対意見があったり、クラブアドバイザーが理事会で値上げを何度アピールしても反対されるなど、会費の値上げや年間パスポート制の導入に際し、値上げのデメリットについて理事会の中でかなり意見を戦わせました。

翌23年度に100～200円の幅で値上げを実施し、totoからの助成金受給も開始しました。同時に「(totoの助成金支給が終了する) 5年後の黒字化」を念頭に置くようになり、翌24年度からは入会金制度(新規加入者のみ一律1000円)をスタートさせています。

3 | 年間パスポート制の導入

その後も2度(平成25年度と26年度)の値上げを実施しました。併せて、平成25年度からは「年間パスポート」制度を導入しました。1回ごとに参加費を支払うチケット制だけでは、雨の日には来ないなど参加率に波が生まれ、クラブとしての収入も見込めなくなることがきっかけでした。月謝制も検討しましたが、引き落としがかけられないときのデメリットを考慮し、現金収入が見込める年間パスポートにしようと結論に至りました。

しかし年間パスポート制は金額設定が難しく、年間で70%、回数にして1人当たり30回ほどの参加で黒字になると試算し、初年度は「小学生＝9,000円」「中高生および高齢者＝12,000円」「大人＝15,000円」と設定しました。

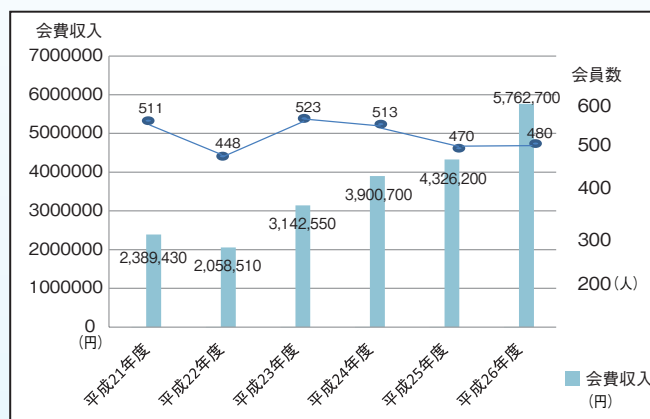
その後、小学生などは参加可能な種目がかなり多いにも関わらず安価すぎるのではないかと意見が出たため、再検討した結果、26年度より、「小学生＝12,000円」「中高生および高齢者＝12,000円」「大人＝16,000円」へと値上げを行いました。

もちろん仕事などの都合により、年間で70%の参加が見込めない方のために従来のチケット制も残しています。参加者のライフスタイルに合わせて、どちらを選んでもよい形態にしています。

以上がtoto終了後の黒字化を確実にするため、値上げに踏み切った経緯です。

■会員数と会費収入の推移

	会員数(人)	会費収入(円)
平成21年度	511	2,389,430
平成22年度	448	2,058,510
平成23年度	523	3,142,550
平成24年度	513	3,900,700
平成25年度	470	4,326,200
平成26年度	480	5,762,700



4 | 年間パスポート制への反応と、直面した課題

年間パスポートを利用している多くは小学生の会員です。初年度は9,000円でしたが、それでも会員の40%が年間パスポートを選択しました。これはクラブとしても予想外の反応で、ならばもう少し値上げが可能なのではないかと翌年から小学生を12,000円にし、併せてチケットの値段も年齢に関係なく一律500円にしました。そうして年間パスポートへの移行を狙ったのです。賢いお母さんたちは「それでも安い」と感じていただき、平成26年度の年間パスポート利用率は50%に上がりました。クラブとしても同年、少しではありますが、黒字に転じ、年間パスポートが一定の成功を収めたと感じております。また年間パスポートにすることで、1回ごとの参加費を支払うことなく多種目への参加が自由にできるというメリットも、会員の方からは魅力に映ったようです。

しかし一方で自由に多種目へ参加できる分、種目によってはキャパシティを超えてしまうなど、さまざまなデメリットも生じ始めています。キッズ体操は2人の指導者がいますが、すべての会員に目が行き届かないという安全面での指摘もあり、現在は「キャンセル待ち」の状態になっているほどです。クラブ収入の面だけで考えると非常にもったいないところですが、これが年間パスポート制を導入して直面した最初の大きな課題であり、今後はその解決に取り組んでいかなければならないと考えています。

5 | 丁寧で、幅の広い告知が説得のカギ

値上げや年間パスポート制を導入するに当たり、クラブとしては会員すべてに手紙を出し、電話でも対応しました。事務局に来られた方には口頭で説明し、より理解していただけるように努力しました。近隣の小学校にも、区を通じて年4回のクラブ報を全児童に送付させていただいています。そうした告知の中でクラブの現状と、年間パスポートのメリットをアピールしています。

6 | 現状を分析し、意識と知識を共有することでよりよいクラブ運営

話は前後しますが、値上げに踏み切った一番の要因は、設立から赤字運営が続き、なぜそうなるのかを改めて原因追及したところにあります。その際、種目ごとに毎月の収支を出し、会員数の増減も調べていきました。やりたいと思っている種目がこの地域に合っているのか、それはどれくらいの価値があるのか、会員の方とコミュニケーションを取りながら、現場感覚で判断しているのです。

そうしたさまざまな角度からクラブの現状を分析したうえで、「この種目はやめたほうがいいのか?」「もう少し値上げができないか?」など、種目ごとの問題点を掘り起こし、理事会に提出してきました。区の担当者や理事の方々にもそれらを詳らかにすることで、意識と知識を共有することができ、解決策も生まれやすくなっています。つまり問題点を一つひとつ解決することこそが、結果的に値上げに踏み切ったとはいえ、少しずつではありますが、右肩上がりの運営にもつながっています。

7 | 財源確保のために、改めてクラブの本質を考える

私たちは値上げを実施することで財源の確保をしてきました。しかしそれをするためには、助成金の期限切れとなる、遅くとも2年くらい前から準備をしておくことが大切だと思っています。準備では何よりクラブ運営の現状を細かく分析し、問題点をいかに抽出し、それを解決に結び付けていく策を考えることが大切になります。

またクラブ運営に携わる理事がいかに自主性を持つかも重要だと考えます。分析した現状を基に、情状に流されることなく問題解決の道を議論していく。これは今後のクラブ運営には欠かせない資質の一つだと思います。テクニックで問題を解決するのではなく、本質的な部分、つまり「自分たちのクラブに必要なものは何なのか？」を考えて、解決に導いていくことが大切なのです。

私たちは平成22年に法人格を取得してから、より「サービス業」を意識するようになりました。「区が立ち上げたクラブで、金額設定も安いからこれくらいのサービスでいいだろう」と考えるのではなく、参加される会員が「お金を支払ってでも価値を得られるクラブ」と感じてもらえることを第一に考えるようにしています。

(理事長／坂井正廣、クラブマネジャー／西山真由美、クラブアドバイザー／土屋由紀)



理事長／坂井正廣



クラブマネジャー／西山真由美



クラブアドバイザー（墨田区）／土屋由紀

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成17年6月（法人格取得 平成22年）
- 所在地：東京都墨田区
- 運営：会員数419名(平成27年8月末現在) 予算規模15,944,769円（平成27年度）
- 特徴：これからスポーツを始めたいと思っている方や、スポーツを通じて地域の人たちと交流を持ちたいと思っている方に、スポーツを楽しく体験できる場を提供することを目的とするスポーツクラブです。体力の維持・増進を図りながら、地域コミュニケーションを充実させることで生きがいも生み出していきたいと考えています。

連絡先：〒131-0041 東京都墨田区八広4-35-17 八広地域プラザ
 内TEL：03-3617-9002 FAX：03-6657-0491
 Eメール：info@sd-azuma.com
 ホームページ：<http://www.sd-azuma.com/>

| 特集 |

クラブの危機を未然に防ごう！

財政面・運営面の見直しを図り クラブと会員双方の負担を軽減

NPO法人 活き生きかにえスポーツクラブ

スポーツ振興くじの助成が終了する前に、財政面からの見直しを図り、危機回避に向けて動き出した活き生きかにえスポーツクラブ。まずは会費の値上げを行い、保険の見直しなど、会員への説明もマニュアル化して丁寧に説明し、理解を得たと言います。そこに至るまでの取り組みをご紹介します。

🏆 キーポイント

- ◎ 財政面・運営面の対策
- ◎ 会費の値上げと保険の見直し
- ◎ 会員への説明責任
- ◎ 会員を第一に考え、サービス向上

1 | クラブ概要

平成20年度から約2年間の設立準備期間を経て、平成22年度より活動を開始し、今年で6年目を迎えるクラブです。当初準備期間中は体育指導委員を中心に運営を行っていましたが、設立後は地域の有志によって運営しています。活き生きかにえスポーツクラブ(以下、クラブ)の特徴は、競技性の高い種目ではなく、誰もが気軽に楽しめる種目をたくさん用意していること。また、会員のニーズを取り入れ、毎年プログラムを見直したり、さまざまなイベントを行っていることです。現在は一般対象種目が13種目、子ども対象の種目を7種目開講しています。「誰もが気軽に自由に参加でき、楽しめるクラブ。健康づくり、仲間づくりの場となるクラブ」という理念のもと、約470名の会員の方々にさまざまな講座やイベント事業を提供しています。

将来的に自立したクラブをめざし、昨年(平成26年10月)、特定非営利活動法人格を取得しました。

2 | 財政面・運営面で対策を取ることになった2つのきっかけ

設立から5年間受けていたスポーツ振興くじ (toto) の助成が平成26年度で終了することとなっており、財政的な見直しが必要となりました。また、将来クラブとして自立をめざすため、行政から事業委託を受ける話が出てきたことの2つを契機に、平成25年11月よりNPO法人格の取得の準備を進め、これからも続くクラブを目標に検討を重ねました。町からの助成金に頼ることなくクラブを運営できる体制を考えた結果、会費の値上げは避けられないという結論に至りました。また、NPO法人格取得には、会計区分の見直しも必要となったため、これまでの会費の徴収方法では、NPO法人会計にはそぐわないことがわかったことも財政を見直す理由の一つとなりました。

3 | 保険の見直しと会費の値上げ。そして、会員への説明

保険については利用会員全員へスポーツ安全保険を付保していた状況から、利用会員全員へレクリエーション保険を、子どもの利用会員にはさらにスポーツ安全保険を付与、正会員と講師等にはNPO保険を付保するといったように見直し、クラブに合った保険を選択することにより、クラブ、会員双方の金銭面の負担を減らすことができました。

また実質的な会費の値上げを行い、これまでの会費制度では、会員であれば何種目でも参加することができましたが、会費の見直し後は、他種目に参加する際は「他講座参加費」として、1回300円を徴収することとしました。

その他にも従来の会費制度では、1割引であった家族割を1,000円割引に変更したり、会員の方々には負担が増える改定となるため、会員の方々の理解を得ることが重要であると考え、対策に取り組みました。会員の方々に早い段階で案内するため、平成27年4月から会費を改定することが決定したあとは、平成26年10月から会員向けに発行しているクラブ通信などで案内を始めました。平成27年1月からは次年度の継続の手続きを行い、その際には会員の方々に会費の値上げについてきちんと説明できるように、スタッフ間でマニュアルも作成しました。

会費の値上げに当たり、クレームが出た場合の対応を事務局内で同じようにするための認識確認を重ねた結果、心配するほどのクレームはありませんでした。そして、会員さんから直接質問された場合は丁寧にお答えすることで、変更に対して理解をいただけたと感じています。

■平成26年度 会費

会 費			スポーツ 安全保険
	半期払	1年払	
小中学生	5,000円	8,000円	800円
一 般	6,000円	10,000円	1,850円
65歳以上			1,000円

●家族割引●

1家族2名以上の同時入会の場合は、会費を1割引にします。(同居に限ります)

■平成27年度 会費および参加費

入会金	1,000円		
年会費 (保険料・ 参加費 含む)		全 期	後 期
	一 般	13,000円	6,500円
	ジュニア (18歳未満)	12,000円	6,000円

※後期：10月1日以降の入会の際の年会費

他講座参加券 (スタンプカード形式)	10回券	5回券
	3,000円	15,000円

4 | 安定した運営を続けるためにサービスの向上を

ここ1～2年、近隣に幾つもの民間スポーツクラブが開業した影響もあり、今年度は会員数の減少もありましたが、値上げのおかげで収入的には問題なく運営できています。今後は、プログラムの見直しやサービスの向上を図るなどして、会員の増加をめざしていきたいと考えています。

5 | 地域になくてもならないクラブをめざす！

クラブでは理事、事務局スタッフで構成された企画会議を月2回行い、迅速な対応、機動力のあるクラブ運営をめざしています。具体的にクラブの中期計画としては、3年後に会員の継続率70%を確保し、クラブ会員数600名を達成したいと考えています。そうすることにより、一層クラブが経済的に安定し、多くの事業を実施できることとなります。クラブが地域の方々に今以上に受け入れられ、なくてはならないクラブになれるよう、今後もクラブ運営に取り組んでいきたいと考えています。

(クラブアドバイザー／山田瞳)



チアダンス入門



ヨガ教室



ボールエクササイズ

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成22年3月14日
- 所在地：愛知県海部郡蟹江町
- 運営：会員数473名(平成27年9月現在)、予算規模930万円(平成26年度)
- 特徴：蟹江町で唯一の総合型地域スポーツクラブ。地域住民がスポーツを通じて「地域住民の健康づくり、地域社会の活性化、青少年の健全育成に寄与する」ことを目的に設立。競技性の高い種目はあえて作らず、子どもから高齢者まで自由に参加でき、健康づくり仲間づくりのできるクラブをめざしている。講師、指導者は種目の認定資格を取得しており、個性を生かした指導が好評を得ている。また、会員からのニーズに応え、講座、イベント等の企画にも力を入れている。

連絡先：〒497-0044 愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田字佐屋川東46
 TEL：0567-55-9780 FAX：0567-5-9781
 Eメール：ikiksc@tenor.ocn.ne.jp
 ホームページ：<http://www.ikiksc.com/index.html>

特集

クラブアドバイザーも 資質・技術の向上を目指して

クラブを運営されているみなさまに寄り添って活動をしているクラブアドバイザー。
そのクラブアドバイザーは、一堂に会して資質・技術向上のための研修を毎年受けていることを
ご存じですか？ 今回はその研修の様子をご紹介します！

クラブアドバイザーとは？

クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しています。

日本体育協会では、平成27年10月時点で33都道府県体育（スポーツ）協会に33名のクラブアドバイザーを配置しています。



クラブアドバイザーミーティングとは？

日本体育協会が配置しているクラブアドバイザー等を対象に、その資質と技能の向上を図ることを目的に実施しています。

平成27年度は、「総合型クラブが持続可能な活動を図る上で必要となる『人材の育成』や「スポーツ少年団との連携・協働（スポーツ少年団リーダー・指導者制度の理解など）」を主な内容として、5月と9月にそれぞれ2日間の日程で行われました。

第1回 5月19日（火）・5月20日（水）

講演

クラブライフとスポーツボランティア

■ 講師：二宮 雅也氏（文教大学准教授）

スポーツボランティアは、「地域住民のクラブ運営への参画促進」という観点からも大変重要であるため、スポーツボランティアに造詣の深い二宮氏より講演いただきました。

講演を受けて、各クラブアドバイザーは、「総合型クラブがボランティアの参画を促すために取り組むべきこと」と「クラブアドバイザーとしてどのような助言ができるか」をテーマにグループワークを行いました。



講演内容(一部)

- スポーツ参加は多様化しており、「する」「みる」に加えて「支える」への関心が高まっている。
- クラブを支えるボランティアは、そう簡単には育たないため、中長期的な計画で育てる必要がある。
- スポーツの語源は「Deportare (ラテン語)」で日常的苦勞からの解放、気晴らし、休養、遊びといった意味があり、ボランティアの語源は「Voluntarius (ラテン語)」で義勇兵という意味で、「無償制・社会性」といった要素は含まず、「自発性」のみである。
共通することは、自らの意思において活動するということ。
- スポーツボランティアにとって、一番の喜びは、全力でプレーした選手からの「感謝」の言葉や、周囲からの「レコグニション(認められること)」。
こうした環境を、スポーツをする人、みる人、支える人の間でお互いに構築できるかが鍵である。

講演

『スポーツ宣言日本』を考える

■ 森丘 保典(日本体育協会 スポーツ科学研究室室長代理)

日本体育協会が総合型クラブの育成等を行う際の必要な取組を掲げている「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」は、2011年に本会とJOCが創立100周年を迎えたことを契機として策定した「スポーツ宣言日本」を基軸としていることから、まずは同宣言について解説し、理解を深めました。

講演後には、同宣言と育成プラン2013との関係について説明を行いました。



講演内容(一部)

- スポーツ宣言日本には、「スポーツは自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の文化である」と明記されている。
- 「自発的な運動の楽しみとは？」を考える材料として、オランダの文化史家であるヨハン・ホイジンガの書籍「Homo Ludens (ホモ・ルーデンス)」を紹介。
人間の文化はすべて「遊び」から生まれた。遊びは、ある一定の時間・空間の範囲内で行われる自発的行動もしくは活動である。

第2回 9月8日(火)・9月9日(水)

講演

総合型クラブとスポーツ少年団の連携事例

■ 講師：米谷 正造氏(川崎医療福祉大学教授)

総合型クラブとスポーツ少年団のいずれにも精通している米谷氏から、その知見とご自身が関わる「きよねスポーツクラブ」の事例等を交え、講演をいただきました。

講演後には、3名のクラブアドバイザーより総合型クラブとスポーツ少年団が連携・協働している好事例の紹介や「総合型クラブとスポーツ少年団の連携・協働に向けてクラブアドバイザーができること・できないこと」等をテーマにグループワークを行いました。



講演内容(一部)

- スポーツ少年団では、「スポーツ少年団指導者全国研究大会」の分科会において、1996(平成9)年から総合型クラブをテーマとして扱い続けている。
- 総合型クラブとスポーツ少年団は同じような理念を掲げているにも関わらず、さまざまな理由により連携が図られていない実情もあるが、それを乗り越え、良い連携・協働の事例が見られ始めている。
- 総合型クラブとスポーツ少年団が相互補完して、地域のスポーツを推進することが求められている。

紹介された好事例(一部)

- 初心者向けの指導をクラブが行い、上達した子どもの能力を判断し、自主的に少年団を紹介する。
- クラブと少年団の合同練習を行う。
- スポーツ少年団の組織は別であるが、総合型クラブに全団員が加入しており、個々人でクラブ事業に参加している。
- 総合型クラブで実施しているジュニアプログラムの一部を単位団として登録することにより、スポーツ少年団が開催するスポーツ大会やリーダースクール等の各種事業に参加している。

スポーツ少年団のリーダー・指導者制度

講演

■ 講師：小出 利一氏（NPO法人新町スポーツクラブ）

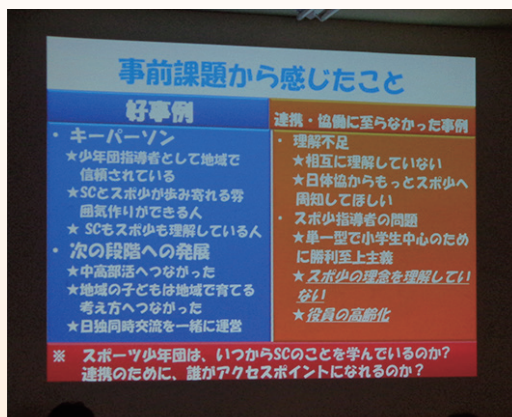
リーダー出身指導者の半生と新町スポーツクラブの人材育成システム

■ 講師：近藤 亮太氏（NPO法人新町スポーツクラブ）

スポーツ少年団の制度を活用してクラブの人材育成に取り組んでいるNPO法人新町スポーツクラブの小出利一氏、近藤亮太氏より、その事例を紹介いただきました。

講演内容（一部）

- スポーツ少年団が大島鎌吉氏（1964年東京オリンピック競技大会日本選手団長）をはじめとした先達による青少年の健全育成や世界平和への熱い想いで創設されたという経緯。
- スポーツ少年団員の模範やまとめ役・指導者のサポートを行うリーダーが、スポーツ少年団の理念を伝える指導者へと成長するサイクルを目指しているリーダー・指導者制度の概要。
- スポーツ少年団のリーダー・指導者制度によって自分自身が成長した過程・体験談（近藤氏）。



特集

スポーツ推進委員と総合型クラブ

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのために、地域や市区町村行政との関係が強いスポーツ推進委員は総合型クラブの育成・支援に係るキーパーソンとなります。そこで、今回は、「スポーツ推進委員」とスポーツ推進委員の全国組織である「全国スポーツ推進委員連合」を紹介します。

Part 1

世界に例を見ない日本の スポーツ推進委員とは？

地域に根差して貢献するスポーツ推進委員

●配置目的

スポーツ基本法の規定に基づき、当該市町村におけるスポーツ推進のため、事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行うことを目的として、配置されています。

スポーツ推進委員は、非常勤の公務員であるという世界に例を見ないユニークな制度であり、委員はほぼボランティアともいえる活動を通して、地域スポーツの拡大発展に大きく貢献しています。

●委嘱

スポーツ推進委員は、市区町村教育委員会もしくは市区町村長から委嘱されます。

▶委員数(47都道府県／平成27年8月1日時点)

51,310人(男性：35,434名、女性：15,876名)

▶歴史

昭和32年の文部次官通達により体育指導委員制度が発足し、同36年に制定された「スポーツ振興法第19条」において、市区町村教育委員会任命の「体育指導委員」として法的に位置づけられました。

そして、平成23年6月公布の「スポーツ基本法」により、名称を「体育指導委員」から「スポーツ推進委員」へと変更され、新たな機能も期待されることとなりました。

スポーツ推進委員の3つの役割

- ▶ スポーツの実技の指導
- ▶ その他スポーツに関する指導・助言
- ▶ スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整

地域におけるスポーツ推進委員の変遷

昭和32年 (1957年)	地域の人々の体力向上や健康づくりを目指したスポーツ振興を支える「体育指導員」が制度化され、文部省が設置を行政指導で奨励
昭和36年 (1961年)	「スポーツ振興法」によって法的に身分が裏付けられ、任命制度がスタート
平成12年 (2000年)	スポーツ振興法の改正により、任命制度から委嘱制度へ変更
平成19年 (2007年)	地方分権の流れの中で、体育指導委員の所管が教育委員会から首長部局に移管することが可能となる
平成23年 (2011年)	スポーツ基本法の成立に伴い「スポーツ推進委員」へ名称変更

スポーツ推進委員に係る法律

体育指導委員およびスポーツ推進委員に係る法律は下表のとおり。

スポーツ振興法(昭和36年)

第19条 市町村の教育委員会(特定地方公共団体にあつては、その長)は、社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解、及び次項に規定する職務を行うのに必要な熱意と能力を持つ者の中から、体育指導委員を委嘱するものとする。

2 体育指導委員は、教育委員会規則(特定地方公共団体にあつては、地方公共団体の規則)の定めるところにより、当該市町村におけるスポーツの振興のため、住民に対し、スポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行うものとする。

3 スポーツ推進委員は、非常勤とする。

スポーツ基本法(平成23年)

第32条 市町村の教育委員会(特定地方公共団体にあつては、その長)は、当該市町村におけるスポーツの推進に係る体制の整備を図るため、社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を有し、及び次項に規定する職務を行うのに必要な熱意と能力を持つ者の中から、スポーツ推進委員を委嘱するものとする。

2 スポーツ推進委員は、当該市町村におけるスポーツの推進のため、教育委員会規則(特定地方公共団体にあつては、地方公共団体の規則)の定めるところにより、スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行うものとする。

3 スポーツ推進委員は、非常勤とする。

Part 2

スポーツ推進委員を束ねる 全国スポーツ推進委員連合とは？

全国スポーツ推進委員連合の変遷

昭和 35 年
(1960 年)

体育指導委員の全国組織として、「全国体育指導委員協議会」が結成

昭和 50 年
(1975 年)

社団法人の許可を受け、「社団法人 全国体育指導委員連合」が設立

平成 24 年
(2012 年)

「公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合」へ移行認定

全国スポーツ推進委員連合の活動目的

【公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合定款より】

この法人は、我が国のスポーツ推進委員を統括する組織としてスポーツ推進委員相互の協力体制を確立して資質の向上を図るとともに、社会の変化に応じた地域スポーツの振興に関する事業を行い、もって国民の健康体力づくりや生涯を通じたスポーツ習慣の形成を図り、我が国のスポーツの発展に寄与することを目的とする。

連携・協力し合う都道府県組織

全国47都道府県で結成されています。

都道府県組織の名称は（都道府県）協議会、連絡協議会、連合会、委員会などがあり、それぞれで連携・協力しながら資質向上のための研修会や事業を行っています。

事務局の所管部署は、現在、18県（知事部局他）を除いては都道府県の教育委員会となっています。

多岐にわたる事業内容

(1) 理事会・総会 (年2回開催)

(2) ファミリー健康体力向上事業 (平成24年度から実施)

(3) 研修事業

- ① 全国スポーツ推進委員研究協議会
開催地は国体2年前の都道府県 参加者約3,500人
- ② 地区研修会 (9地区)
参加者数：9地区合計約12,500人
- ③ スポーツ推進委員リーダー養成講習会 (平成24年度から実施)
- ④ 海外視察研修会
平成26年度はニュージーランド、平成27年度はカナダを訪問
- ⑤ 各都道府県研修会
参加者は各都道府県ごと約300～800人
- ⑥ スポーツ推進委員初任者研修助成
都道府県主催の研修に連合から助成

(4) スポーツ関連事業への協力等

- ① 生涯スポーツ・体力づくり全国会議
文部科学省、日本体育協会・日本レクリエーション協会等の団体、開催県との共催
参加者約1,000人
- ② スポーツ安全保険加入促進
平成25年度スポーツ推進委員加入者数21,833人

(5) 表彰

- ① 文部科学大臣表彰 (文部科学省から表彰) ② 功労者表彰
- ③ 優良団体表彰 ④ 30年勤続表彰 ⑤ 感謝状贈呈

(6) 広報事業

- ① 機関紙「みんなのスポーツ」・手引書等の発行

(7) その他

- ① スポーツ推進委員用グッズの販売 (ジャンパー、ポロシャツ、ネクタイ等)
- ② スポーツ推進委員手帳の販売

｜ 特集 ｜

スポーツ推進委員と総合型クラブ

スポーツ推進委員をクラブの 運営主体に組み込み、連携を図る

あいあいスポーツクラブたらぎ

「あいあいスポーツクラブたらぎ」では、毎回行われる各教室にてスポーツ推進委員がクラブスタッフと協力して指導に当たるなど、スポーツ推進委員と連携してクラブを運営しています。そこで、クラブの取り組みや具体的な活動をご紹介します。

🔑 キーポイント

- ◎推進委員とクラブスタッフの協力
- ◎意見の食い違いをいかに調整するか
- ◎日々の話し合いの中で理解を深める

1 | クラブ概要

あいあいスポーツクラブたらぎは、スポーツ推進委員を中心に設立したクラブですが、さらに地域住民の声を活動に反映するため、設立に関わった町職員（元教育振興課課長）を中心とした役員会を立ち上げ、会議を行うなど理解促進を行いながら、活動を推進してきました。

当時、サークルとして活動していた既存の団体（単一種目の教室など）への全体説明会により加入した教室や、社会体育の生涯教室から移行した種目なども含めて、現在21種目のプログラムがあります。

2 | 事業の企画 案、現場指導などスポーツ推進委員と連携

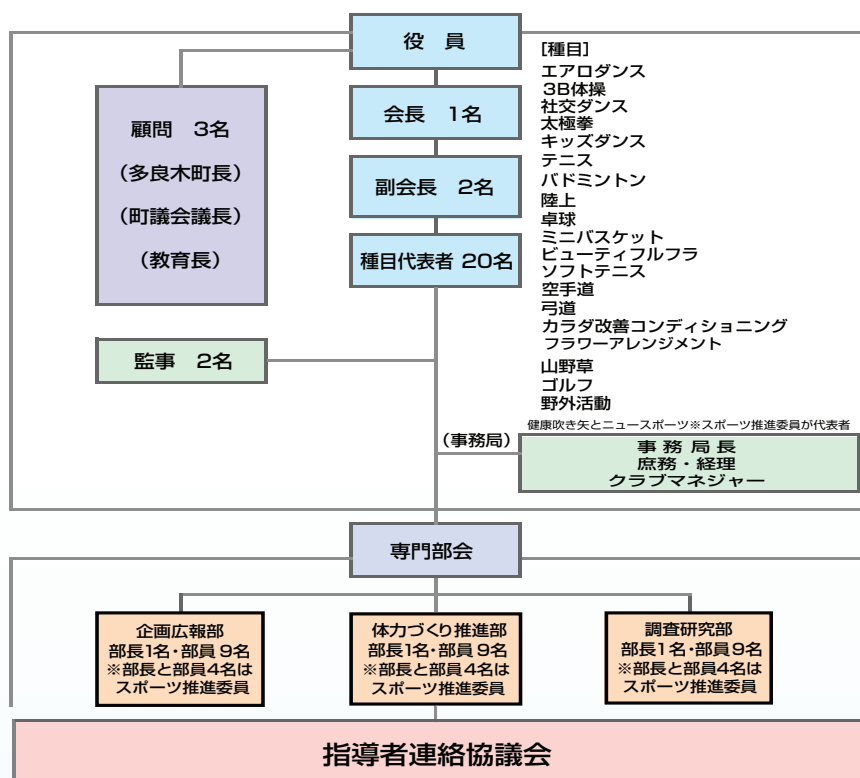
スポーツ推進委員の活動は運営主体に組み込まれており、特に町へのスポーツ普及のための「ニュースポーツ教室」の指導者として運営に携わっていただいたり、クラブ事業を企画する際には、スポーツ推進委員の立場からさまざまな意見をもらっています。また、スポーツ推進委員をクラブの専門部会に振り分けており、各部会での役割も担っていただいています。

具体的な活動としては、クラブで事業の企画・立案をする際、スポーツ推進委員の企画部の方にも会議に参加していただき一緒に企画を立てています。そして、「スポーツ吹き矢教室」をはじめ、実際の教室では指導者やスタッフとしても、スポーツ推進委員とクラブスタッフで協力して指導に当たっています。



「スポーツ吹き矢教室」で指導に当たるスポーツ推進委員

■平成27年度 あいあいスポーツクラブたらぎ 組織図



専門部会の役割

- ①企画広報部…スポーツ教室、指導者養成講座、大会等の企画・実施をし、社会体育の啓発を図る。
- ②体力づくり推進部…スポーツに親しめる環境づくり、健康・体力の保持増進を図る。
- ③調査研究部…社会体育の実施、志向等の統計調査や、体育施設の利用状況及び問題点を把握する。

3 | クラブの内情を理解した上での指導者確保

スポーツ推進委員とクラブが連携するにあたり、町教育委員会との連携も必要でした。以前から開催されていた町教育委員会とスポーツ推進委員との会議の際には、スポーツ推進委員がクラブの情報を提供し、間に入って調整をしてくれます。また、クラブから個別の打ち合わせや相談にも乗ってもらっています。さらに、スポーツ推進委員の方々にはクラブの会議にも参加していただいているため、クラブの内情を知ってもらった上での指導により、クラブのことを理解した指導者確保にもつながっていると思っています。



クラブの会議にスポーツ推進委員も参加

4 | 立場の違いにより時には意見の食い違いも…

多良木町にはスポーツ推進委員が15名います。しかし、イベント時などのスケジュール調整、企画に対しての意見の相違など、意見の集約や事業実施に至るまでには大変な苦勞があります。意見がまとまりにくい場合には、町教育委員会に相談してアドバイスを仰ぐこともあります。

また、根本的に「総合型地域スポーツクラブの業務はクラブスタッフの業務（本業）であり、スポーツ推進委員は町（教育委員会）の業務を行うべき」という考えを持っている人がおり、時には意見に食い違いが出ることもあります。

5 | 目的や狙いの共有で連携への理解をさらに深める

クラブとスポーツ推進委員の連携に関して、意見をまとめるのは難しい面があります。ですから、事業を起こす際の会議だけでなく、定期的または日々の中で連携について話し合い、目的や狙いを共有していかなければならないと思っています。

今後も「地域スポーツの振興」という大きな目的に向け、よりよい体制や方法を模索していく必要があります。そして、スポーツ推進委員の方には、町のスポーツ推進という意識と理解を持った活動を積極的に行っていただき、クラブを含め地域との連携を図っていただけたらと思います。

（クラブアドバイザー／太田黒尚子）

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成20年2月27日
- 所在地：熊本県球磨郡多良木町
- 運営：会員数250名（平成27年10月1日現在）、予算規模2,340円（平成26年度）
- 特徴：子どもから高齢者までスポーツ・文化に親しむことができる生涯スポーツ・生涯学習社会を目指して、スポーツ環境をつくり、地域コミュニティの場を提供し、健康・体力の保持増進に努めることを目的としています。

**連絡先：〒868-0501 熊本県球磨郡多良木町大字多良木1467-3
多良木町民体育館内**
TEL：0966-42-4040 FAX：0966-42-4044
Eメール：aiai_sc_taragi@cronos.ocn.ne.jp
ホームページ： <http://aiai-sc-taragi.jimdo.com/>

| 特集 |

人材確保のコツとは？

指導者の積極的な受け入れが 人材確保へと大きくつながる

伊那市総合型地域スポーツクラブ

指導者として活動したいという志の高い人を積極的に受け入れ、クラブ会員には「初心者とは本クラブへ。さらに極めた人は指導者主催の講座や民間のジムへ」と、珍しい形をとっている伊那市総合型地域スポーツクラブ。クラブマネージャーらの個の熱い思いやつながりから、広く人材確保としての広報活動のため行政への働きかけなどを行ったクラブの取り組みを紹介します。

🔑 キーポイント

- ◎理念の見直しと組織づくりの強化
- ◎人材募集を広く告知
- ◎積極的な指導者の受け入れ
- ◎行政への働きかけ

1 | クラブ概要

平成13年、伊那市は文部科学省推進である総合型地域スポーツクラブの研究小委員会を立ち上げ、建議に基づき、平成18年までに市内中学校区5つに総合型地域スポーツクラブを順次設置しました。しかし、それぞれのクラブでの問題点（財源、会員・指導者確保）があり、個々での運営が難しくなりました。そこで伊那市と5クラブで必要性・公共性等各方面から検討した結果、将来にわたり伊那市のスポーツ振興を担うという位置づけを前提に5つのクラブを統合し、平成20年に「伊那市総合型地域スポーツクラブ（以下、クラブ）」として設立しました。運営委員の多くはスポーツ少年団や伊那市体育協会の指導者などで構成され、スタート時は年間活動講座数（スポーツ・運動、文化）40講座、スポーツ活動団体17団体、会員数895名だったものが、平成27年度には年間活動講座数114講座、スポーツ活動団体33団体、サークルサポートクラブ19サークル、会員数2,569名へと発展しました。

クラブ・会員がともに成長しながら地域コミュニティの形成、地域の活性化をめざし、受益者負担を含め、新しい公共事業を担っていきたいと考え実行しています。そして、常に魅力ある活動内容への見直し、地域のニーズなどのリサーチを心がけています。財政面については受益者負担だけに頼らないように、クラブ理念に賛同してくれる地元企業からの協賛・協働への働きかけをしています。そして、行政からの委託事業を積極的に受け、官と民が手を携えて地域を元気にしていきたいと活動しています。

2 | パンフレットやホームページで人材募集の告知

年々クラブの規模が大きくなっていく中で、マネジメントができる人材の必要性に迫られ、人材確保の取り組みを始めました。まず信用ある団体をめざすために、3年前に理念の見直しと組織づくりの強化を図りました。それと同時に多方面に、クラブ理念・クラブの目的を第一に広報し、クラブを理解してもらうところから取り組んでいきました。

広報活動としてはパンフレットやホームページに「理念に賛同し、共に目的を持って地域のためにできること……講師募集中!!」など、毎回会員募集と共に講師募集についても掲載し、認知のきっかけづくりをしています。

クラブ
パンフレット▶

3 | 指導者登録も歓迎！ 民間ジムとも相互関係を築く

本クラブでは、指導者登録用紙をクラブへ提出し、スポーツ安全保険に加入していただくと、クラブの指導者として登録されます。この指導者登録にあたって特に資格等は問いません。指導者として活動したいという志がある方を歓迎しています。クラブへの指導者登録にはまず理念・目的に賛同していただきます。その中で指導者の強みを生かせる講座のマネジメントを心がけています。

基本的にクラブでは入門的な講座・教室を開催していますが、受講者がより深めていきたいものについては、指導者がクラブとは別の活動をしている民間スポーツジムや、個人で独自に開催している講座に移ってもらえるようにしました。そして、クラブには常に初心者が入門し、極めたい人は指導者の所に直接参加するという好循環が出来上がりました。それによっておのものの指導も自然と丁寧になり、クラブの教室の質も上がるという相乗成長効果がありました。現在では、競技種目・文化・フィットネスなど、総勢130名の方に指導者登録をさせていただいております。



8月に行われたトリムマラソンの様子



地域密着で行われているミニバスケットボール



クラブには託児の受け入れシステムもある

4 | 行政への働きかけや個のつながりから広がる人材確保の道

指導者確保のための取り組みとして、まずはクラブパンフレットの質を高め、伊那市（行政）に理解していただき、市報とともにクラブパンフレットを全市へ配布することができました。また、県を通じ、上伊那スポーツ振興協議会の協力を得て、市外の小中学校にも配布することができ、広域的に「だれもが指導者になれる」ということが目に触れやすい環境を整えました。市内外からの「こんなことができますが、教室は開けますか？」という気軽に問い合わせのできる窓口もあります。

そして、現在では当初のマネジャーなどの個のつながりから発展し、現在ではさらに広く人材確保の道ができました。こうして一年を通じて指導者の方から多くの企画案をいただき、今では114講座を開催しています。しかし、これらのことは一朝一夕にはできませんでした。まず、クラブの理念を理解してもらうことに始まり、出会った一人一人の価値観が違う中で、共通点を見つけだしたり手放したりと、前向きにマネジメントしていくことが、楽しくできるようになるまでには時間がかかりました。あらゆる成功体験だけでなく、失敗しても諦めずに続けてきた経験があってよかったと思います。

5 | マネジャー・スタッフの好循環がクラブの発展につながる

マネジャーに必要な要素は徹底した地元愛があること。つまり、地域のネットワークがあり、そこから地域を元気にするためにさらにネットワークを広げることができ、それが喜びであると感じ、行動が仕事になっていること。クラブ理念の中の「OK！OK！の関係」、共同体の感覚を持てることが大切だと思っています。常にだれかをおもてなししたいと思える人、だれかの喜ぶ顔がガソリンになる人が人間関係の好循環を生んでいくとわかりました。

そして、マネジャー・スタッフの好循環ができると、そこからスポーツ指導者・運動指導者や文化指導者などへと輪が広がり「総合型地域スポーツクラブ」としても発展していくことが可能になります。また組織のトップである春日明男委員長が「とにかくやってみよう！」精神で、マネジャーの相談にも「やってみたらいい」と答えるので、失敗を恐れず実践することができ、その先に答えは自然と出てきました。

大局的に組織を見守る人、現実にはマネジメントする人、現場で指導する人たちの役割が交わりながらも、明確であることが大切だと考えています。

（クラブマネジャー／山岸洋子）



スタッフの声

- クラブに関わることによって社会貢献が自分の生きる力となって返ってくるとさらに実感しています。そして、地域を元気にするサポーターだと感じ、誰かの何かの役に立っていることで、日々の生活も変わってきました。
- 誘われてよく知らずに関わりましたが、ほかのスタッフの活動を見て知ったことで、もっとこのクラブのことを多くの人に広めたいと思うようになりました。



指導者の声

- クラブで指導することで、自分が今までスポーツを通じて与えてもらった感動や信頼感を再認識でき、それが生きがいになっています。
- 総合型クラブは、本当に自分のやりたいことをかなえられる場所です。だれかの自己実現の力になりたいという気持ちを発揮できる場所だと実感しています。
- 私は自分の持っている物や力をガソリンにして、人の役に立ちたい、人の役に立てる居場所をつくるのが、総合型の指導者なのだと深く感じています。

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成20年4月1日
- 所在地：長野県伊那市
- 運営：会員数2,569名（平成27年9月現在） 予算規模2,500万円（平成26年度）
- 特徴：当クラブは、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」を基本理念に、妊婦さんから90歳までの会員の参加により、年間スポーツ・運動や文化講座を114講座開講しています。また、地域のスポーツ少年団、中学校の社会体育・運動サークルなども応援し、イベントは年間12回、地域スポーツの拠点になるよう活動しています。

連絡先：〒396-0026 長野県伊那市西町5824
ウエストスポーツパーク管理センター2階
TEL：0265-73-8573 FAX：0265-98-0270
Eメール：inasougo@valley.ne.jp
ホームページ：<http://inasougo.com/>

| 特集 |

人材確保のコツとは？

SNSを通じて求める人材を明らかにし、 よりよい人材発掘に尽力！

一般社団法人 サンビスカス沖縄

クラブ運営に関わる人材の確保は、多くのクラブで課題となっています。サンビスカス沖縄の場合、2014年3月頃からソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を通じて広く人材募集の告知を行い、よりよい人材確保に尽力してきました。そこでこれまで行ってきたサンビスカス沖縄の取り組みを紹介します。

🔑 キーポイント

- ◎SNSの利用
- ◎メリットもデメリットも掲示
- ◎インターンシップの受け入れ
- ◎クラブ運営に必要な知識を配信

1 | クラブ概要

サンビスカス沖縄の設立者である宮城兄弟がブラジルに行った際に、とある地域のスポーツクラブと出会いました。そこには大きな競技場から小さなテニスコート、多目的広場、公園、フットサルコートなど数々の施設が並んでいて、小さな子どもから高齢の方までスポーツを通して生き生きと活動をしていました。クラブハウスのレストランでは、プロの選手とファンの子もたちが一緒にご飯を食べたり、高齢者同士のコミュニティが存在していたり、育成世代の未来のプロ選手たちがたくさんいたり、「すべての人が関わり合い、すべての人が応援し合う。まさに、スポーツで街が一つになっている」——そんな感覚を覚えました。

そういったスポーツクラブを目の当たりにした宮城兄弟は、「こんなクラブを沖縄にもつくりたい！」と思い、設立に至ります。そして、当時の思いそのままに、「スポーツで街を元気に！」というクラブ理念のもと、「いつでも」「どこでも」「誰とでも」気軽にスポーツができる環境づくりをする、そんなクラブをめざし活動しています。

2 | SNSを駆使してスタッフ募集の告知

人材確保のためにまず行ったのは、ウェブサイトでの募集でした。「スタッフ募集!」というバナーを設置し、SNS (FacebookやTwitter) でどんどん告知をしました。

そして、ウェブサイトのスタッフ募集ページに代表者からのメッセージとして、仕事内容や募集概要に加え、会社に入ることのでられるメリット(自分の好きなことに没頭できる、やりたいことに挑戦するなど)を掲示しました。さらに、デメリット(将来の安定は確約できない、自己責任の文化、週末によく仕事があるなど)も過剰な期待を防ぐためにもあえて正直に書きました。それにより、私たちが求める人材を明らかにすることで、応募数は減ったかもしれませんが、しかし、よりよい人材が来るようになりました。



3 | 問い合わせが増え、インターンシップ受け入れも実施

SNSやウェブサイト以外にも、ホームページを見た大学生や専門学校の学生からクラブにインターンシップについても問い合わせがあり、インターンシップの受け入れを行いました。その後も、学生や専門学校などの学生課からの問い合わせを受けるようになり、インターンシップの受け入れを積極的に行うようにしています。インターンシップの受け入れは、大学や専門学校からも大変喜ばれており、クラブとしても、インターンシップ生が未来のスタッフとして関わることで、波及効果を得ることができました。実際に過去のインターンシップ生からスタッフになった学生もいます。

4 | メリット、デメリットを掲示することが大事

よい人材を確保するためには、やはり、「どんな人材を求めているのか?」をきちんと掲示する必要があります。過剰な期待や、理想の姿ばかりではなく、会社のメリットやデメリットも含め、それでもクラブの魅力を感じる人材であれば、自ら申し込んでくるはず。それがよい人材を確保するために最も大切なことだと思います。

とはいえ、ウェブサイトにスタッフ募集を掲示するには時間がかかりました。ページ構成のほかに、全スタッフのインタビューを記事形式で表示するため、時間をかけて取材もしました。その結果、現場スタッフの生の声を掲載することでより仕事内容がリアルに描写できるため、時間をかけた分、反応はすごく良かったです。

5 | さまざまな面から発信し、即戦力となる人材発掘を!

今後も、このような人材を確保していきたいと思っています。そのために、クラブ運営に必要なマーケティングの知識、マネジメントの知識を学ぶためのメルマガを配信しています。すでに登録数は500近くになりました。こういったスポーツビジネスに関する知識人をどんどん発掘し、より即戦力になる人材確保のためにさまざまな面から発信していきたいと思っています。

●スポーツマーケティング、マネジメントを無料で学べる

スポーツプレナーシップURL→ <http://sunbeliefokinawa/sportskigyuu/>



スタッフの声

●サンビスカス沖縄理事／大城充幹さん



なぜこの仕事を選んだのですか？

「実は、ずっとサッカーをやっていて、とにかくサッカーに関わっていきたくて思っていました。学生時代も仲間に恵まれ、県大会で優勝したりと、サッカーが僕にいろいろと夢を与えてくれたのです。でも、高校を卒業して、サッカーから少しずつ離れていく中で『本当にこれでよいのか？』と、ずっと考えていましたね。そんな中で、サンビスカスが設立当初ということもあって『ここで自分を試したい』と、その時は直感的に動いた次第です」



今の仕事は？ どんな仕事をしていますか？

「現場指導が中心になっていますが、保育園や幼稚園の体育指導だったり、クラブのサッカースクールのコーチとして活動しています。ほかにも地域から委託された事業等で、いろいろな場所でスポーツ指導をするのが主な活動です。また、最近では全体の指導者の管理や外部団体との調整役、大会やイベントの企画リーダーを任されたりしています」



サンビスカス沖縄の活動を支えているスタッフの皆さん



サンビスカスに入社したい人へメッセージを！

「好きなことしかやってこなかった僕が、サンビスカスに関わるようになって本当に大きく成長することができました。もちろん、まだまだこれからです。さらに自分自身も成長していきたいと思っていますし、そういった環境に身を起しながら過ごす日々は本当に充実しています。やった分だけ成果が出て、その分たくさんの人たちに感謝されたりもします。そんな人たちを僕らと一緒に幸せにしたいと思っている方が、サンビスカスに来てくれたらうれしいですね」

(サンビスカス沖縄クラブマネージャー／宮城奈津子)

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成21年3月21日(平成27年1月9日法人化)
- 所在地：沖縄県沖縄市
- 運営：有料会員数184名、無料会員数623名(平成27年11月現在)
予算規模1,500万円、委託金700万円(平成27年度見込み)
- 特徴：「スポーツで街を元気に！」をクラブ理念に、「いつでも」「どこでも」「誰でも」気軽にスポーツができる環境づくりをめざし、さまざまな事業を展開しています。また、海外トップ選手を誘致し、国内トップ選手を招いたイベントを毎年開催したり、活動は地域の枠を超え、国内外にまで展開しています。クラブを通して一人でも多くの方が夢を持ち、心身ともに元気になっていただけるよう、頑張っていきたいと思います。

連絡先：〒904-2615 沖縄県沖縄市宮里3-39-21-701

TEL：098-989-4695 FAX：098-989-4696

Eメール：sunbi@sunbiscusokinawa.com

ホームページ：<http://www.sunbiscusokinawa.com>

特集

総合型地域スポーツクラブと コミュニティ

いつでも、どこでも、誰もが、日常の中で継続的にスポーツを行うことができる「総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）」は、地域住民の運営によるスポーツを通じた多世代交流は、総合型クラブの最も大きな特徴の一つと言えます。

文部省（現：文部科学省）が1995年に総合型クラブの育成事業をスタートし、20年の歳月が流れました。近年では「財源確保」や「指導者確保」等、運営に課題を持つ総合型クラブが多い現状です。しかし、総合型クラブが地域に存在することにより、多くの人々がスポーツによるさまざまな恩恵を受けています。

今回は、地域社会論等を専門としている茨城大学の長谷川幸介先生より、さまざまな課題が挙げられている総合型クラブの“意義”や“可能性”を、現代社会の“地域コミュニティ”の実情と絡めて、お話いただきました。（以下はインタビューをまとめたものです）

長谷川 幸介（はせがわ・こうすけ）

茨城大学社会連携センター准教授、1950年生まれ、1975年茨城大学卒業。専門分野は教育法学、生涯学習論、地域社会論。「学校と地域の教育力」、「子どもの発達と地域の教育力」等をテーマに研究し、子どもたちの育成、地域づくり等について全国各地からの要請を受けて熱心に講演活動も行っている。また、「生涯学習とまちづくり」「今を生きる人間学」「教育法コンメンタール」など多くの著書がある。



▶▶▶▶「4つの縁（えにし）」が人をつなぐ

●みんなの幸せを育む「4つの縁」とは？

人は未熟な哺乳類として地球上に生まれました。だから、この未熟さを克服するために「幸せ装置＝社会」を作ることになりました。そして、この社会は人と人のつながりでできており、そのつながりを「縁（えにし）」と言います。「縁」は大きく分けて4つあります。

①「血縁」…家族のつながり

家族はお互いに支え合うという仕組みで作られた組織です。しかし、昔は3～4世代で家族を作っていた形が、この50～60年の間に核家族化が進み、その縁が徐々に弱くなってきています。

②「地縁」…地域の人たちとのつながり

薄れてきた「血縁」に代わる一つの「縁」として、地域の人たちとつながる「地縁」があります。ただし、これも大きな問題を抱えています。

今、地域には4種類の人があります。昔から住んでいる「土着の人」。ほかから移り住んで来た「定着の人」。社宅やアパートに住んでいていずれ町を出て行く「漂泊の人」。そして、海外から来た「異国人の人」です。それぞれ違う価値観を持った人たちが一つになるのは大変な作業ですから、その時にルールが必要になってきます。そのルールを作るのに最適なのがスポーツで、「人をつなぎ」「違いを認め合っていく」作業に大変適しています。

③「友縁」…友達や同じ趣味・嗜好を持った人とのつながり

総合型クラブの人たちは、スポーツを通じてネットワークを作る、同じ趣味・嗜好を持った人たちです。一般的には同好会、サークルなどありますが、総合型クラブは同じ地域で生活する人たちが集まっています。つまり、「友縁」という同じスポーツをやっている仲間でありながら、また一方で地域と関わる人たちであり、一番重要な「縁」となります。



④「職縁」…仕事を通じたつながり

職場や仕事を通じてコミュニティを形成している人たちのつながりが「職縁」です。

一般的にサラリーマンはどんなに頑張って働いても65歳で定年です。会社に勤めている間は友達も多いですし、車の運転ができれば遠くの友達にも会いに行くことができます。しかし、高齢になり車の運転ができなくなると、近所の人との付き合いだけになってしまいます。また、遠方の友達との縁も切れてしまいがちです。

●無縁社会から脱却してみんなが支え合う支援社会へ

「4つの縁」が繋がっていることでこれまで人間はいろいろな課題を克服し、幸せな社会生活を送ってきました。しかし、時代とともに核家族化が進み、家族、地域、会社などにおける人とのきずなが薄れ、孤立する人が増えている日本の現代社会のこうした一側面を「無縁社会」と呼びます。

ではどうしたらいいのか。お互いを支えあう「支援社会」を作っていく必要があります。そして、この「支援社会」を作っていくために、総合型クラブが一つの大きな役目を担う存在となります。

ただ普通にスポーツをやっている人たちと、総合型クラブでスポーツをやっている人たちは違います。単純にスポーツをやっている人たちは、地域社会に触れていない人たちが多く、好きな人たちだけで集まって自分たちの幸せだけを作っています。今後はこの人たちにも「つながり」を広げる必要があります、その人たちを巻き込んでいく要となるのが、総合型クラブになるのです。

どうか総合型クラブを運営されている皆さんは、「自分たちはスポーツを通じて地域の人たちと協力して地域作りをしているのだ」と誇りを持ってください。

その誇りを胸に活動が続けることで社会的評価が高まり、より多くの地域住民をはじめ、多くの方々に「総合型クラブの活動は重要だ」と気づいてもらえるはずです。財政的に厳しいからといって、活動をやめてしまうには惜しい組織だと思います。

▶▶▶▶ 総合型クラブの“意義・可能性”とは？

●「健康は3つに分類できる」

私はスポーツと密接な関係にある健康を、「肉体の健康」、「精神の健康」、「縁の健康」と3つに分類しています。このうち、「縁の健康」について、お話ししましょう。

「縁(えにし)の健康」。これは、人と人がつながる健康のことを言います。

例えば、腕立て伏せが50回できる70代の男性がいるとします。その人が、離れ小島で「今日は腕立て伏せ、51回まで挑戦するぞ」と頑張ったとしても、誰もいない所では褒めてくれる人はいません。そんな人生は健康(幸せ)でしょうか？ 地域でみんなが集まってラジオ体操をやる時、「〇〇さん、元気？」と声を掛け合う仲間がいるから、幸せを感じられるのです。人と人のつながりの中で健康は生かされるということです。

●多くの地域住民と“つながろう”！

前述した「3つの健康」のすべてに応えられるのが総合型クラブです。特に「縁の健康」は一般のスポーツクラブにはない要素と言えます。今、総合型クラブは財政面等で逆境にあるかもしれません。しかし、逆に言えば、お金に縛られているクラブ運営をもう一回変えていくチャンスではないのでしょうか。

そこで、総合型クラブの皆さんにお聞きしたいと思います。本当に地域の人たちと関わっていますか？ 例えば茨城県で言うと、県民300万人のうち、約80万人が高齢者になっています。そういう高齢者(老人クラブなど)に声を掛けたことがあるのでしょうか？ 子育て真っ最中のお母さんとのつながりはどうですか？ 子育てはストレスを背負います。そんなお母さんと子どもが簡単にできる軽スポーツを提示したことがありますか？

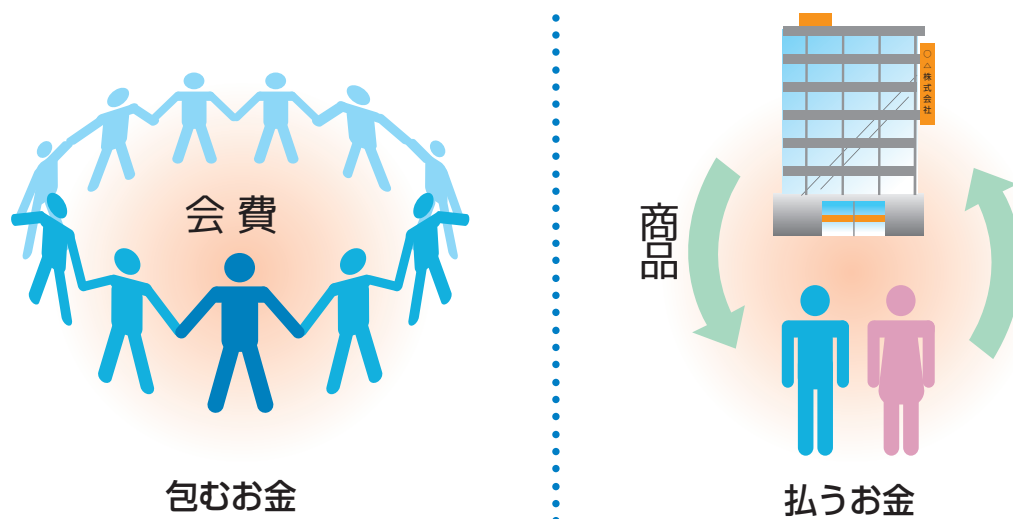
総合型クラブは健康で幸せな生活を送るために運営しているのですから、従来のスポーツの枠を超えて地域とつながる新しいスポーツの在り方を考えてほしいのです。総合型クラブの目の前には可能性がたくさん広がっています。それを見つけられるかどうかは、これからの皆さんの活動にかかっていると言っていいでしょう。

●お金には換算できない意義のある活動

総合型クラブが集めたお金はただのお金ではありません。例えば、300万円の会費、もしくは助成金が入ったとします。総合型クラブにとっては、この300万円は人と人がつながった実績になるのだと思ってください。民間企業のように金額で捉えるのではなく、人と人のつながりの実績を数字で表しているだけです。お金と見ると気が乗らなくても、人間同士の縁が作ったものだと思えば、自分たちがやっていることにすごく誇りが持てるはずです。もしお金に困っているなら、つながりを作ろうという思いで事業を考えればいいし、財政が厳しくなった時につなかりの大切さが初めて見えると思います。だからチャンスなのです。総合型クラブには民間スポーツクラブにはない、地域住民が集まるメリットがあります。それを事業化するというのはただのお金ではなく、人と人のつながりの実績だということを理解する必要があります。

また、文化人類学では「払うお金」と「包むお金」という2つの言葉があります。「払うお金」とは、物が右から左へ流れ、お金が左から右へ流れます。つまり売買です。一方、「包むお金」は友達同士、親戚、知り合いなどの間で動くお金です。例えば、結婚式のご祝儀がまさにそれで、お祝い金を払うとは言いません。「ご祝儀を包む」と言います。

それと同様に、総合型クラブの売り上げ(会費や助成金など)も「包むお金」です。そこをきちんと理解せずに、お金というと全部一緒くたに考えてしまいますが、私たちが思想とする総合型クラブが事業で得るお金は「包むお金」であり、人間同士のつながりを作っていくお金だと理解して戦略を作ることが大切です。



●幸せ作りのために総合型クラブがある

今回、私が一番言いたかったのは、「総合型クラブは何のためにやっているのか」ということです。お金がないから不幸(無理)だと思わず、「幸せ作りのために総合型クラブを運営しているのだ」ということを心に留めていただければと思います。

| 特集 |

総合型クラブに求められるスポーツ推進 ～健康づくり、運動の習慣化～

大学と連携して村民の健康づくりに寄与

NPO法人川場村スポーツクラブ

総合型クラブの活動において、地域住民へスポーツ活動を促し、地域住民の健康増進および体力づくりに寄与することは大切な役割の一つです。そこで、群馬大学との連携で健康測定や体力測定を実施し、村民の健康づくりを行っている川場村スポーツクラブの活動に着目しました。

♂ キーポイント

- ◎大学との連携で健康測定・体力測定を実施
- ◎行政からの要請で中高年の健康づくり
- ◎アンケート実施で参加者の声を生かす

1 | クラブ概要

村の方向性として村民全員（子どもからお年寄りまで）が健康で暮らせるようにと、行政中心に「総合型地域スポーツクラブ」の設立に向け取り組み、平成25年10月に川場村スポーツクラブを設立しました。さらに平成27年4月にはNPO法人格を取得し、村の施設の指定管理を受け、安定した運営を目指して活動しています。そして、各教室の募集要項や開催案内を村内の企業や全戸に配布し、子ども向け教室については学校に依頼して開催案内を配るなど、子どもからお年寄りまで参加できるプログラムに取り組んでいます。



川場村武道館内のクラブハウス

2 | 大学との連携で健康測定・体力測定を実施

クラブ運営が活発にと、行政の方針でクラブ事務所がある建物の空室に、スポーツジムを併設することになりました。健康測定器等の購入にあたっては、クラブの教室で過去に指導を行った群馬大学の学生から体育学部の教授を紹介してもらい、教授の指導のもとで準備を進めました。設置後は健康測定器の使用方法や体力測定の結果・説明で、群馬大学と連携して活動しています。

健康測定器では体組成計で体脂肪や筋肉量、骨量、内臓脂肪や基礎代謝などの計測、血管年齢、脚力測定を行い、体づくりをする前の自分の健康状態を検査します。そして、その数値を基に指導員のアドバイスを受けて、クラブに併設されているジムで自分の劣っているところを強化しています。そういった、データとして表示された数値から自分の健康状態を知ることにより、日常生活において健康に注意するようになるなど、住民が健康に対して意識してきたことが伺えるようになりました。

さらに年1回行われる新体力テストでは、文部科学省の体力診断テストを基に、握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害歩行、6分間歩行などを、群馬大学より10名程度のスタッフを派遣していただき、実施しています。終了後には、テスト結果の「得点レーダーチャート」をクラブスタッフから参加者一人一人へ渡し、それぞれの結果についての説明をしています。それにより、自分の体力年齢を把握することができ、参加者の皆さんも喜んでいきます。



健康測定実施は個人の健康状態を知る機会となった



新体力測定を導入し、体力年齢を把握



クラブ事務所と同じ建物にスポーツジムを併設

3 | 行政からの要請で中高年の健康づくりにも寄与

行政から中高年の健康づくりを考えてほしいと要望がありました。そこで、60～75歳の自分で車の運転ができる村民を対象に「筋力アップ教室」を行いました。毎年、冬場に行う参加者に人気のあるプログラムですが、昨年度は7回実施したところを今年度は10回に増やすなど、行政と一体となって、行政の手の届かない部分をクラブで補うことを心がけて運営しています。

その他にも、昨年11月には、福岡大学の医学博士「田中宏暁」先生を招いてスロージョギング教室を実施しました。スロージョギングは足腰に負担のかからないプログラムのため、足腰に不安を抱える村民にも好評でした。参加者募集にあたっては、群馬県スポーツ協会、近隣行政の体育課や企業に募集要項の設置を依頼し、県内の新聞3紙にも掲載するなどしました。また、県内クラブへも、イベント時に募集案内を手渡したり、郵送するなど案内を行いました。イベント当日には、村民をはじめ100名近くの参加があり、村教育長も参加して日常生活に取り入れているそうです。

さらに、「家庭から笑い」とクラブ員はもちろん婦人会、老人会の方にも大勢参加していただき、ラフターヨガ教室を実施しました。このプログラムは笑いヨガの呼吸法を組み合わせたもので、全身を使って笑いながらたくさんの酸素を体に取り入れる健康法です。もちろん、部屋中いっぱいに参加した皆さんの笑い声があふれ、認知症予防にも一役買っています。

4 | アンケートの実施や男性会員の増加を目指す

クラブとしては、今後は群馬大学との連携をより一層深め、村民の多くが参加し、健康に対する目標を持てるようなプログラムづくりを提案していきたいと考えています。その他のプログラムについても、教室ごとにアンケートを実施し、参加者の要望・満足度を調査し、生の声を大切にしてクラブ運営に反映していきたいと考えています。

今後の課題は、各種教室の参加者は女性が多いため、いかに男性の参加者を増やしていくかということです。そこで、ほかの総合型クラブ等と交流を深めてよりよい運営方法を研究するとともに、行政（健康福祉課）等とも連携して参加者を増やしていきたいと思います。

（川場村スポーツクラブ事務局長／星勝実）



女性会員の多い状況から脱却を目指したい

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成25年10月22日
- 所在地：群馬県利根郡川場村
- 運営：会員数276名（平成27年12月現在）
予算規模：2千219万7千円（平成27年度）
- 特徴：川場村は、スポーツを通じた地域活性化をはじめ、村民の健康維持や健康増進を図ることを目的にスポーツタウン構想を推進してきました。その一環として、平成25年10月に総合型地域スポーツクラブ「川場村スポーツクラブ」を設立、その経緯からも常に教育委員会をはじめとする行政と一体で各種イベント等への協力や参加を行っています。また、クラブの事務所として利用している、川場村武道館をはじめとする各スポーツ施設の指定管理を受託しており、事務所のある武道館は常設のトレーニングジムもあり、クラブがそのジムを運営していることからクラブ会員も徐々に増えています。今後は、雪山ハイキングや夏の登山教室等、地域の特徴を生かした教室にも取り組む計画です。

連絡先：〒378-0114 群馬県利根郡川場村大字天神1138-1
TEL&FAX：0278-25-3549
Eメール：kawaba-sports@apple.kannet.ne.jp

| 特集 |

総合型クラブに求められるスポーツ推進 ～健康づくり、運動の習慣化～

地域づくりを重視した運動環境の提供

NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南

クラブマネジャーの発案で「運動をしていない方々に運動環境を提供したい」と、行政への働きかけにより「地域介護予防活動支援事業」を受託し、地域住民の健康づくりを担っているゆうゆうスポーツクラブ海南。その活動は単に介護予防だけでなく、地域づくりにも一役買っています。

🔑 キーポイント

- ◎運動をしていない人に運動環境を提供
- ◎地域住民の近くに出張指導
- ◎地域コミュニティづくりを重視した指導

1 | クラブ概要

NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南は海南市のスポーツ教室の終了をきっかけに平成19年3月に設立されました。翌年の20年3月にはNPO法人格を取得し、21年度より海南市の指定管理者となり体育施設を管理するようになりました。クラブの事務所がある市総合体育館をはじめグラウンド、テニスコート、プール等市内11か所の施設を管理しています。

クラブでは幼児から高齢者、障がい児を含めた会員のニーズに応じた50以上のプログラムが展開されており、体育館はいつもにぎわっています。また、様々なイベントを通して人と人をつなぎ、地域の絆を深め、町が元気になる原動力となっています。

2 | クラブマネジャーの発案で事業実施が決まる

クラブとして健康・医療に関する事業を行うことになったきっかけは、南由佳クラブマネジャーが「教室のプログラムなどで会員を増やすことよりも、運動をしていない方々に運動環境を提供していくことが必要である」と考え、当クラブのある海南市の高齢介護課に提案したことでした。

そして「地域介護予防活動支援事業」を平成25年度から26年度まで海南市より受託し、「介護予防地域づくり」や「ラジオ体操自主活動支援」を実施しました。事業実施にあたっては、各地区の公民館やコミュニティセンター単位で参加者の募集を行い、クラブに来てもらうのではなく地域住民の近くに指導員が出張する形で、地域住民の皆さんの身近な場所に運動の場を設け実施しました。

3 | 自主活動を目指した事業運営

(1) 介護予防地域づくり(3日間シリーズ90分/回)

運動の内容や効果に関する講義に加えて、ラジオ体操第1、ラジオ体操第2、ピラティスボール運動を行いました。この取り組みでは、単発に講座を開催するのではなく、継続して活動を行ってもらうことが重要であり、それが真の介護予防、健康維持につながると考えました。そのため、誰もが知っていて、取り組みやすいラジオ体操を中心とした講習としました。3日間の講習では、自主活動のための広報・会場手配の方法・CDプレーヤー等物品の準備など活動運営にあたって必要な役割分担を提示し、グループワークの中で、講習終了後に自主的に活動できるように取り組んでいます。講習に参加した地域の人たちが活動の場を広げられるよう工夫しています。

(2) ラジオ体操自主活動支援(1回/年、30～90分/回)

「介護予防地域づくり」の後に継続してラジオ体操を行っているグループのフォローアップを「ラジオ体操自主活動の支援」として行っています。フォローアップでは、各地域を年に1度クラブの指導員が訪問し、時間の経過とともに忘れがちになる体操のポイントや効果を改めてアドバイスしています。そのフォローアップでは、地域のコミュニティの醸成を感じることができます。

これらの講座やフォローを行うにあたり、ただの実技・運動指導だけでなく、地域づくりの視点を常に忘れることなく指導・助言を行っています。介護予防グループからそれらの活動を通してできた新たなグループも生まれています。そして、体操前に参加者で公園の草取り、清掃を行ったり、他のスポーツを楽しんだりと活動も広がっています。また、欠席者を気遣うなど地域の絆も深まっています。

海南市ではラジオ体操よりもさらに運動強度の高いシニアエクササイズของกลุ่ม活動も行っており、地域から要請があればクラブから出張指導等を行い、自主活動につなげています。それと同時に、クラブの教室プログラムとしてもシニアエクササイズを開催しています。

また、ラジオ体操グループがさらに活動を広げ、シニアエクササイズに取り組む新たなグループも増え、平成27年度はさらにシニアエクササイズに取り組む新たなグループが1つ活動を始めました。



ラジオ体操で健康づくりに取り組む



シニアたちも元気にラジオ体操で汗を流す

4 | 地域住民のつながりと運動意欲の高まり

こうして立ち上がった22グループの活動頻度は様々ですが、継続して活動したことで、運動習慣のなかったところに活動が生まれました。また、地域コミュニティづくりを重視した指導を行っており、通りがかりの地域住民や普段あまり外に出なかった高齢者が参加することで住民同士のつながりが深まり、さらなる運動プログラムへの参加など運動意欲が高まっています。

海南市高齢介護課は、「ゆうゆうスポーツクラブ海南に事業委託をしたことにより、単に介護予防だけでなく、地域づくりを重視しての指導がありがたい」と話しています。

5 | 元気な町づくりの中心となるクラブに！

現在自主運営しているラジオ体操グループは、各地域に定着してきました。クラブとしては、今後より一層の発展のために参加者のニーズに応え、様々なプログラム提供・情報発信を行っていきます。

また、今年度は参加者のアンケート等により、膝痛についての講座を開催し、好評を得ました。そして、介護保険法の改正により病後、術後のリハビリも保険対象となることから、PT（理学療法士）とさらに連携をしていくことが求められています。

市の高齢介護課だけでなく、健康課、医療機関との連携もさらに深め、すべての地域住民に運動の機会を増やし、医療費削減・介護予防はもとより、健康づくりへの意識向上をこのクラブは担ってくれています。元気な町づくりの中心となり、さらになくてはならないクラブになるでしょう。

（和歌山県クラブアドバイザー／田林由加）

クラブプロフィール

- 設立年月日：平成19年3月25日
- 所在地：和歌山県海南市海南地区
- 運営：会員数501名（平成27年12月現在）
予算規模1億4200万円（うち指定管理費1億1050万円／平成26年度）
- 特徴：ゆうゆうスポーツクラブ海南は、「スポーツの力」と「地域の絆」でココロとカラダ、そしてまちを元気にするお手伝いをしています。〈環境づくり〉〈ひとづくり〉〈健康づくり〉〈きずなづくり〉〈スポーツの振興〉の5つのミッションを掲げ、みんなの想いを形にしていきます。

連絡先：〒642-0022 和歌山県海南市大野中1106 総合体育館内
TEL&FAX：073-483-6454
Eメール：u-u@kainan.info
ホームページ：<http://kainan.info/>

特集

スポーツリスクマネジメント実践への第一歩 「まあ、いいか」をなくそう！

スポーツにおいて“ケガは付きもの”であり、「まあ、いいか」と流していませんか？
何事も慣れてくると危機感が薄れ、楽観的になるもので、気を抜いた時に事故に見舞われかねません。
総合型地域スポーツクラブの活動中、ケガや事故が起こることを事前に想定し、万が一の時に迅速に対応するためにもリスクマネジメントの必要性が高まっています。その第一歩が、「まあ、いいか」をなくすよう意識を高めることです。

今回は、公益財団法人スポーツ安全協会の助成を受け、昨年日本体育協会が発行した「スポーツリスクマネジメントの実践」の著者である株式会社インターリスク総研の本間基照氏にお話をいただきました。安全にスポーツを楽しむためにも、最低限事故が起こらないクラブ運営を目指していきましょう。

リスクマネジメントの必要性

1 リスクマネジメントとは？

リスクマネジメントとは、事前対応（事故発生を予防するための対応）と事後対応（事故が発生したとき最悪の状況にならないための対応）を合わせたものです。

事前対応

想定される事故事例を収集／予測・予防・確認
人間はミスをするものなので、行動にリスクは付きものです。

!!! 事故発生!!!

事後対応

最悪の事態を想定／速やかな対応が必要

2 事故発生の実状

平成25年の「スポーツ安全保険の加入者および各種事故の統計データ」の年齢別事故率の統計結果によると、スポーツ時の事故発生率が一番高いのは10代です。さまざまなスポーツをする機会が増える小学校高学年～中学生の男子の事故が特に多く、体の成長にうまく対応できず事故につながっています。40代もまた、体が動いていた過去の記憶と年相応の運動能力のギャップによりケガが起こりやすく、20代～30代より事故率が高くなっているので注意が必要です。また、事故発生率は過去5年間ではほぼ横ばいになっています。事故を減らすためにも、より一層リスクマネジメントの意識を持つことが重要です。

「事故の発生しやすい競技種目ランキング」は、やはりコンタクトスポーツが上位を占めています。

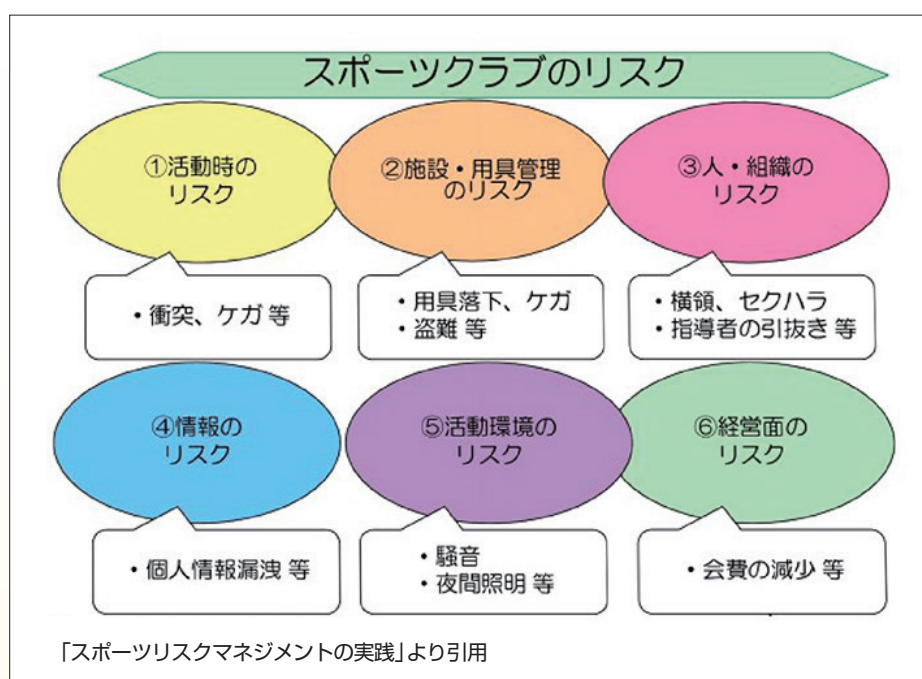
「傷害部位別事故率」では、手指が0.34%（31,204件）と断トツでトップ。スポーツにおいて手や足のケガは避けられず、事後対応としての応急手当の方法を指導者は知っておいた方が良いでしょう。頭部の事故率は0.04%（4,046件）と他と比べても少ないケースですが、重大な事故となる可能性が高く、正しくかつ迅速な対応が求められます。

スポーツ種目が多様化している昨今、競技特性をイメージしにくいマイナースポーツは、ケガについても想定しにくいのが現状です。特に高度なテクニックを要する種目の指導者は、参加者のレベルに合わせた指導や参加者へのケガの注意を促す等、事故を予防する対応が望まれます。

※年齢別事故率、競技種目別事故件数、傷害部位別事故率等の事故発生率の詳細については、「スポーツリスクマネジメントの実践」の61～65ページに掲載してあります。

3 クラブを取り巻くリスクとは？

スポーツ時の事故やケガ以外にも、組織や情報に関するリスクも増えています。起こるであろうリスクを把握するとともに、万が一の時に備えた準備が必要です。



どうする？リスクマネジメント

1 「人的要因」と「物的要因」

事故が起きる要因は2つ！

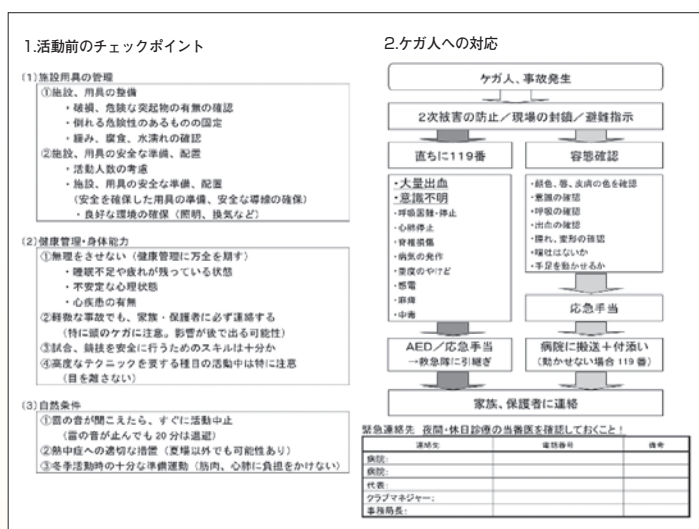
- 人的要因** ▶ ヒューマンエラー、対応策を知らない、スキルがない…など
- 物的要因** ▶ 施設、用具の欠陥…など

2 リスクマネジメント対策マニュアルを活用

「まあ、いいか」をなくすためにも、必ず活動前に「活動前のチェックポイント」「ケガ人への対応」の2つをチェックし、指導者一人ひとりの意識を高めてください。特に健康管理については、参加者の判断になってしまうので、声をかけたり、顔色で体調をチェックするなど細心の注意が必要です。

ケガ人が出た時の対応方法として、「応急手当」(「スポーツリスクマネジメントの実践」P85～86)の項目も見やすいところに貼って備えておくクラブスタッフだけでなく、事故発生時にその場に居合わせた人が誰でも活用できます。

〈スポーツリスクマネジメントの実践 P83～84〉



3 記録することの習慣化

事故になる一歩手前の“ヒヤリハット”やニュース等で見た事故、他のクラブの事例などを含めて、メモ書き程度でよいので記録することを習慣づけましょう。

リスクを回避するためにも、未然で事故に至らなかった“ヒヤリハット”した時こそ、その要因を書き留めておくことが大切です。賠償や裁判となるような大きな事故となった場合、書き留めたメモが重要な記録になるとともに、記憶を固定してくれます。さまざまなケースの事例を蓄積することが、リスクマネジメントには欠かせません。「スポーツリスクマネジメントの実践」87ページの様式を使用すると、より具体的に、そして効率的に記録ができます。

4 情報共有～情報交換

事故後は、クラブスタッフ間でその原因を洗い出し、必ず総括を行ってください。クラブ内で情報を共有することはもちろん、他のクラブとの情報交換もリスクマネジメントにおいては大事なことです。年1回でも、地域や協議会等においてディスカッションをする機会を作るよう働きかけてください。

5 事故を想定したシミュレーション

傷病者が出た時にどう行動すればよいのか？——事故発生を想定したシミュレーションが必要です。

- 救急箱やAEDはどこにあるか？
- 役割分担や搬送経路はどうするか？
- 病院の場所や診療時間（休日夜間診療）の確認など

常に最悪の事態を想定し、迷ったらすぐに119番に電話してください。事故発生時の情報を記録し、救急隊員に見せることで、隊員が状況をすぐ把握することができ、迅速な処置につながります。

事故が起きてしまうのは仕方ないこと。2～3度と続けて起こさないことが大事



そのためにもマニュアル化が重要

クラブのリスクマネジメント対策マニュアルや記録用紙を印刷して常にクラブの活動場所に貼り、いつも確認し、書き込めるようにしておきましょう。

リスク事例と対応策

1 損害賠償責任が課されるケース

損害賠償とは、故意または過失により損害を与え、損害について金銭で賠償する責任を負うことです。
〈損害賠償が課されるケース〉

- 指導ミスや危険な練習方法によって起きたケガ
- 活動中の器物破損
- 近隣周辺や移動中の迷惑行為や事故
- 不用意または不適切な施設や用具を使用して起きた事故
- 熱中症や落雷等、自然環境への注意を怠って起きた事故
- 個人情報漏洩、肖像権や商標登録等の権利違反…など

賠償金は高額になる可能性が高く、保険に加入して備えておくことをお勧めします。

2 個人情報管理の徹底

ケガと同じように情報管理にもさまざまなリスクが想定されます。お金やお財布と同じような意識で個人データを取り扱うとともに、データ漏洩やUSBなどの記録メディアの紛失を想定して管理することが基本となります。

〈対策〉

- データ、パソコン自体をパスワードをかけて保護
- データ管理者を限定
- パソコンのウィルス対策（セキュリティソフトを使用）…など

個人所有パソコンでデータを管理する場合は特に意識を高く持ち、データ漏洩や紛失を想定し、事故発生時の対応を検討しておく必要があります。また、スポーツの種目によっては、個人の病歴を把握しておかねばなりません。より慎重に取り扱うべき情報であり、漏洩した場合は多額の賠償責任を課される場合があります。パスワードと管理者を限定する二段構えでの管理体制が理想的であり、クラブ内では常にリスクに対する意識を高めていくことも大切です。

3 肖像権や商標登録などのトラブル

個人情報漏洩とともに、参加者の写真掲載や名称に関するトラブルが増えています。写真を掲載する場合は、本人の了承を取るよう心がけましょう。また、一人ひとりの顔がわからないような俯瞰写真や、後ろ姿だけの写真を選んで対策することもできます。

また、種目の名称が実は商標登録されており、名称使用の差し止めや訴訟に発展してしまったケースがあります。商標については、弁理士等の専門家に相談するのが一番ですが、特許情報プラットフォームのサイトで簡単に検索することもできます。このサイトで調べれば絶対安心というわけではありませんが、念のため名称を決める前に商標登録されていないか一度調べてみてください。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>

4 スポーツ保険加入は転ばぬ先の杖

費用が発生するスポーツ保険への加入の義務づけは難しいですが、転ばぬ先の杖として加入していくことをお勧めします。損害保険には、賠償責任保険と傷害保険の2種類があります。

■賠償責任保険

会員のケガの原因がクラブまたは指導者にあり、「法律上の」損害賠償責任が発生した場合に支払われるもの

■傷害保険

会員がケガをした場合、通院1回で、または入院1日ごとに保険契約で定められた定額が支払われるもの

保険の知識を得ることも大切ですが、わからないことは、保険会社に聞いてみましょう。参加者にとっては金銭的負担を強いることにはなりますが、保険に入って備えることがリスクマネジメントにとっては先決です。

**「まあ、いいか」をなくすために、
「リスクマネジメント対策マニュアル」を活用し、
クラブ内や地域で「情報共有／情報交換」を行い、
事故防止に努めましょう！**

スポーツ現場におけるリスクマネジメントは広まりつつあり、事故防止の意識も高まっています。予防策から解決法、さまざまな事例が掲載されている「スポーツリスクマネジメントの実践」を活用していただき、情報を共有する場をどんどん増やし、事故の発生をできるだけ減らしていきましょう。

「スポーツリスクマネジメントの実践」

平成21年度から平成25年度に公益財団法人スポーツ安全協会の助成を受け実施したリスクマネジメント研修会の内容を、各地で出た質疑応答の内容も含めて取りまとめたものが「スポーツリスクマネジメントの実践—スポーツ事故の防止と法的責任—」です。この冊子は、日本体育協会のHPからウェブブックがご覧いただけます。ウェブブックでは、印刷はもちろんのこと、メモや付せんをつけることが可能です。また、アプリとしてもApp Store iTunes、Google Play Androidより無料でダウンロードが可能です。パソコン、スマートフォンなどからご覧いただき、クラブの事故防止にぜひ活用ください！



<http://www.japan-sports.or.jp/publish/local/tabid/936/Default.aspx>

本間基照 (ほんま・もとみつ)

株式会社インターリスク総研事業リスクマネジメント部事業継続マネジメントグループマネジャー・上席コンサルタント／1992年、早稲田大学理工学部卒業後、三井住友海上火災保険に入社。2004年にインターリスク総研に出向し、現在に至る。企業、大学、自治体などの防災対応や危機管理態勢構築を支援している。今回紹介した「スポーツリスクマネジメントの実践」の著者。

